

科目名 (英)	心理学Ⅰ PsychologyⅠ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 5時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語聴覚士として、また、心理学を専門分野として研究を深めた教員が担当する。「人を理解する・自分を理解する」という観点から講義を進める。言語聴覚士として将来必要とされる知識の獲得を目指す。さらに、学んだ知識は、実際の生活でも活かせるよう促す。							
【到達目標】 ・言語聴覚士にとって必要な基本的心理学理論の知識を獲得する。 ・「自分を理解する、人を理解する」ことに心理学の知識を活用する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学 山田弘幸著 医歯薬出版株式会社				【授業外における学習】 授業の内容を復習すること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 心理学概論 【授業形態】 講義 【到達目標】 心理学とはどのような学問か説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 発達 【授業形態】 講義 【到達目標】 ピアジェ、フロイトなど代表的な発達理論を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 パーソナリティー 【授業形態】 講義 【到達目標】 パーソナリティーとは何かを説明できる。代表的な類型論を列挙できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 3回で学んだことを振り返り、整理する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 欲求と防衛機制 【授業形態】 講義 【到達目標】 欲求とは何かを説明できる。防衛機制の内容を説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 コミュニケーション 【授業形態】 講義 【到達目標】 受容と共感の意味を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 行動と学習に影響を与える原理 【授業形態】 講義 【到達目標】 身近な行動を「行動と学習の原理」で説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 分からない所、理解の足りない所を洗い出し、復習のポイントを定める。			【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。授業で学んだ専門的な知識の理解を確認する。中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	国語表現法 (Japanese Writing)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 1時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 国語の教員免許を持ち歌人や未来短歌会の編集委員をやっている講師が、レポートや論文を書く際の基礎的な文法や決まり事を例題などを参考に読み解いていく							
【到達目標】 学んだ知識を応用しレポートや論文を解説できる							
【使用教科書・教材・参考書】 プリント配布				【授業外における学習】 知識を深めるために復習を行うようにしましょう			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 オリエンテーション 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 この講義で目指す方向性を確認する。 大学・専門学校でレポートを書く際のマナー 横書き原稿での数字の書き方 常体で書く			9	【授業単元】 電子メールの書き方 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 個人情報や非公衆情報を記さない 必ずしも相手先に届く保証の無い通信手段であることを念頭に置く 資料の添付・セミナーの日程の問い合わせ		
2	【授業単元】 表現になれる 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 レポートや論文では、「思う」で終わる文章を書かない 主語と述語に注意しねじれた文章を書かない 句読点やなかってん・かつこ・かぎかつこ・にじゅうかぎかつこ等の 使い方を学ぶ			10	【授業単元】 はがきの書き方・封筒の書き方・履歴書の書き方 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 演習で実際の書き方を学ぶ		
3	【授業単元】 表現になれる 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 自分の文章と他人の文章を区別する(剽窃に注意) 引用元・引用部分の書き方 要約のルール 参考資料の挙げ方・注のつけ方			11	【授業単元】 名分を知る(論語) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 論語を理解する		
4	【授業単元】 論理的な書き方 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 段落分けを行う 3部構成で書く(序論・本論・結論) 無責任結論を書かない(例題で確認する)			12	【授業単元】 総復習 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 不適切な例文をレポートの形式になるよう書き直す		
5	【授業単元】 メモの取り方 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 双括弧・情報の収集・メモの作成・メモのメリットデメリット 接続語を使う 事実を客観的に書く(不適切な例文と修正例)			13	【授業単元】 総復習 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 学んできたことの総復習		
6	【授業単元】 敬語についての理解(文化審議会の答申) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 敬語について理解する 文章作成時に気をつけるべき敬語 第三者に向けての身内のことを述べる場合の敬語			14	【授業単元】 総復習 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 学んできたことの総復習		
7	【授業単元】 電子的な活字文書の作成 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 電子的な活字文書の作成 改まった手紙の書き方(主文・後付け) 手紙を書く場合の禁制 行頭・行末・2行にわたって書かないもの			15	【授業単元】 定期試験 解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験 解答解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 7回までの復習			【評価方法について】 評価は中間試験40点定期試験60点の合計100点で評価する 評価は学則に準ずる			
【特記事項】 あくまでも、計画です。この通りに進まないことがあります ただし、内容は変わりません							

科目名 (英)	プロ養成講座Ⅰ (Career DevelopmentⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 1時限
【授業の学習内容と心構え】							
言語聴覚士としての臨床経験を持つ教員が、3年間の学校生活で身につけるべき医療人としての身構え・気構え、心構えをはじめ、言語聴覚士としての職業像を明確にするための授業を行う。臨床現場で求められる言語聴覚士とはどんな人材なのか。自身がどのような言語聴覚士になりたいかを考えながら積極的に授業に参加してほしい。							
【到達目標】							
言語聴覚士に求められる知識、態度を知り、言語聴覚士の職業像を明確にする。 話し合いの活動を通して、コミュニケーション能力、チームでの協力の仕方を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
配布資料							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 自己紹介およびチームビルディング 【授業形態】 講義 【到達目標】 3年間とともに学ぶクラスメイトを知り、簡単なゲームで交流を図る。			9	【授業単元】 職種についてテーマ学習 【授業形態】 講義 グループワーク 【到達目標】 テーマについてグループで調べて話し合い理解を深める。他のグループにも理解されるように発表の準備をする。		
2	【授業単元】 3年間の学校生活について 【授業形態】 講義 【到達目標】 自分の得意な勉強方法を理解する。 サポートアンケート実施。			10	【授業単元】 職種についてテーマ学習 【授業形態】 講義 発表 【到達目標】 基本的なルールに則りプレゼンテーションを行う。他のチームのプレゼンテーションを聞いて理解に努め、積極的に質疑応答に参加する。		
3	【授業単元】 KJ法を使った導入学習 【授業形態】 講義 グループワーク 【到達目標】 KJ法を使ってグループ毎に意見をまとめる。			11	【授業単元】 テーマ学習 【授業形態】 講義 グループワーク 【到達目標】 テーマについてグループで調べて話し合い理解を深める。他のグループにも理解されるように発表の準備をする。		
4	【授業単元】 KJ法を使った導入学習 【授業形態】 講義 発表 【到達目標】 KJ法を使って班ごとにまとめた意見を発表する。			12	【授業単元】 テーマ学習 【授業形態】 講義 グループワーク 【到達目標】 テーマについてグループで調べて話し合い理解を深める。他のグループにも理解されるように発表の準備をする。		
5	【授業単元】 症例検討 【授業形態】 講義 グループワーク 【到達目標】 KJ法を使ってグループ毎に意見をまとめる。			13	【授業単元】 テーマ学習 【授業形態】 講義 グループワーク 【到達目標】 テーマについてグループで調べて話し合い理解を深める。他のグループにも理解されるように発表の準備をする。		
6	【授業単元】 症例検討 【授業形態】 講義 グループワーク 【到達目標】 KJ法を使ってグループ毎に意見をまとめる。			14	【授業単元】 テーマ学習 【授業形態】 講義 発表 【到達目標】 基本的なルールに則りプレゼンテーションを行う。他のチームのプレゼンテーションを聞いて理解に努め、積極的に質疑応答に参加する。		
7	【授業単元】 症例検討 【授業形態】 講義 発表 【到達目標】 KJ法を使って班ごとにまとめた意見を発表する。			15	【授業単元】 定期試験・解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 職種についてテーマ学習 【授業形態】 講義 グループワーク 【到達目標】 テーマについてグループで調べて話し合い理解を深める。他のグループにも理解されるように発表の準備をする。			【評価について】 評価は提出物と筆記試験にて行う。提出物40点、筆記試験60点の計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 クラスの活動に必要な授業内容が発生した場合は上記内容が変更になる可能性があります。							

科目名 (英)	法学 (Law)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	前期 火曜日 1時限

【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】

大学や専門学校において、法学概論や憲法といった「基礎法学」や「法解釈学」の教育に携わり、「民事法」を研究する教員が、患者の権利や利益を保護し尊重するための医療分野における法制度の知識と、現実問題へ応用できる力を習得する授業を行う。

医療従事者として業務に就くために必要な内容となるので、患者の権利や利益はいかにして守られているかを考えながら受講することを望む。授業内で習得した知識をつかって現実問題を考える演習を行うため、積極的な意見表明を求める。

【到達目標】

- ・言語聴覚士として業務を行う際に必要とされる憲法および言語聴覚士法の概要を説明できる。
- ・患者のQOLを高め、社会復帰を支援する仕組みについて説明できる。
- ・関連する法令や制度を通じて、多職種の専門家や行政機関などと協働できる。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書は指定しない。各回レジュメを配布する。

【授業外における学習】

法律は表現が回りくどく理解しづらいので、言葉や表現の理解に努める。また、授業で配布された資料は復習し、確実に理解しておく。

回	授 業 概 要	回	授 業 概 要
1	【授業単元】 法とは何か 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・社会規範の要素を列挙し、機能を説明できるようになる。 ・社会規範と法規範との違いを説明できるようになる。 ・「法律」「政令」「省令」「条例」の違いを説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
2	【授業単元】 言語聴覚士法① 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・言語聴覚士になぜ法学の知識が必要か説明できる。 ・言語聴覚士法の沿革や目的について説明できる。 ・言語聴覚士という資格に関する各種手続きを説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
3	【授業単元】 言語聴覚士法② 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・言語聴覚士の業務について説明できる。 ・言語聴覚士に課された義務について説明できる。 ・言語聴覚士法に関する問題演習。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
4	【授業単元】 中間試験の実施と解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・これまで学習した内容を振り返り、想起することができる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
5	【授業単元】 日本国憲法 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・日本国憲法の特徴を説明できるようになる。 ・憲法で保障されている人権を列挙できるようになる。 ・医療と憲法がどのように関連するのか説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
6	【授業単元】 患者の権利① 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・人権保障と「患者の権利」の関係を説明できる。 ・インフォームドコンセントとは何か説明できる。 ・患者の自己決定権の重要性を理解し尊重できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
7	【授業単元】 患者の権利② 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・「奴隸的拘束の禁止」と「医療拘束」の関係を説明できる。 ・患者のプライバシーと守秘義務について説明できる。 ・医療情報の管理に関する各種ルールの内容を説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
8	【授業単元】 定期試験の実施と解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・「法学」で扱った内容を振り返り、定着を確認する。 ・これまで学習した内容を振り返り、想起することができる。		【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。授業で学習した専門用語、法制度の理解、定着度を確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。テストは「語群穴埋め」と「五肢択一」の形式である。評価は、学則規定に準ずる。

【特記事項】

言語聴覚士として必要な法学的知識の概要を知るものと位置づけてもらいたい。

科目名 (英)	社会学 (Sociology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	前期 曜日・時間 火曜日 1時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 大学や専門学校において、法学概論や憲法といった「基礎法学」や「法解釈学」の教育に携わり、「医事法」を研究する教員が、患者の生存権を尊重し、社会復帰やQOL向上を実現するための保健医療・社会保障制度の知識と、現実問題へ応用できる力を習得する授業を行う。 医療従事者として業務に就くために必要な内容となるので、患者の生存権はいかにして守られているかを考えながら受講することを望む。授業内で習得した知識をつかって現実問題を考える演習を行うため、積極的な意見表明を求める。							
【到達目標】 ・言語聴覚士として業務を行う際に必要とされる医療制度、社会保障制度の概要を説明できる。 ・患者のQOLを高め、社会復帰を支援する仕組みについて説明できる。 ・関連する法令や制度を通じて、多職種の専門家や行政機関などと協同できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 教科書は指定しない。各回レジュメを配布する。				【授業外における学習】 社会保障制度は制度改正が頻繁にあるので、細かな内容よりも制度の概要を理解するように努める。また、授業で配布された資料は復習し、確実に理解しておく。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 生存権と社会保障 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・憲法25条について暗唱できる。 ・憲法25条を実現する制度について説明できるようになる。 ・公衆衛生の意味とその関連法規を説明できるようになる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】 保健医療制度 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・「医療」とは何かを説明できる。 ・日本の医療提供施設の種類と機能について説明できる。 ・医療安全を確保する仕組みについて説明できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】 医療関連職種 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・医師法と保険看法の概要を説明できる。 ・医療に関する他の専門資格について説明できる。 ・「診療の補助」を行う職種を説明できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】 中間試験の実施と解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・これまで学習した内容を振り返り、想起することができる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】 社会保障① 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・社会保障とは何かを説明できる。 ・社会保障の歴史について説明できる。 ・社会保障の機能について説明できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】 社会保障② 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・少子高齢化の進展と介護問題について説明できる。 ・家族形態の変化と地域社会の崩壊について説明できる。 ・現代の貧困問題について説明できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】 前期のまとめ 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・法学で学習した事項について説明できる。 ・社会学で学習した事項について説明できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8	【授業単元】 定期試験の実施と解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・これまで学習した内容を振り返り、想起することができる。			【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。授業で学習した専門用語、法制度の理解、定着度を確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。テストは「語群穴埋め」と「五肢択一」の形式である。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 言語聴覚士として必要な社会保障制度の概要を知るものと位置づけてもらいたい。							

科目名 (英)	生物学 (Biology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期(前半) 月曜日 5時限
【授業の学習内容と心構え】 生物学の基礎分野を人体の活動を中心に解説する。メディアで生命、生物の分野がどのように取り上げられ、一般の人たちに理解されているか、ときどきは新聞などに見られる生物学上のニュースについても解説し、生物学への興味を喚起したい。また生物学は自分自身の問題であり、いのちを知ることは自分を知ることになる。また、ヒトが生きている限り社会生活上でも必要となる分野である。							
【到達目標】 ・細胞の構造などを代謝など生体活動として説明できる。 ・生体防御に関してアレルギーや実際の疾患などへ反応を理解できる。 ・先端の生命技術の倫理面について考察、論ずることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 やさしい基礎生物 第2版 (羊土社) 視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録 三訂版(数研出版)				【授業外における学習】 各講義は連動する事項が多くあるので、前講義で学習した内容をしっかり復習して次講義に取りくむように。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 生物の定義と成り立ち 【授業形態】講義 【到達目標】 生物の定義と構成、生命誕生の過程を理解する。 人が生き物をどのように理解してきたかを知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 生き物を支える分子と細胞構造 【授業形態】講義 【到達目標】 生物を構成する物質と細胞の基本構造と動物と植物の構造の違いを理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 酵素の働きと代謝 【授業形態】講義 【到達目標】 生体化学反応の基本となる酵素の性質をふまえて呼吸や光合成について理解をする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 遺伝子と働きと細胞分裂、中間試験 【授業形態】講義 【到達目標】 核酸の構造とタンパク質合成の仕組みをふまえて、成長における体細胞分裂の仕組みを理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 生殖と遺伝子の多様性 【授業形態】講義 【到達目標】 次世代形成を生殖、減数分裂により遺伝子の多様性が生ずる仕組みを理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 遺伝の法則と突然変異 【授業形態】講義 【到達目標】 メンデル遺伝と突然変異の仕組みについて理解をする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 免疫のしくみ 【授業形態】講義 【到達目標】 細菌など体内侵入に対する免疫反応、アレルギー反応の仕組みを理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】定期試験、総括 【授業形態】講義 【到達目標】 試験の解説とふり返り			【評価について】 評価は、中間試験(40点)と、定期試験(60点)の合計100点で評価する。 評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 板書される内容をノートに記載する。 試験も板書の範囲から中心に出題する。							

科目名 (英)	統計学 (Statistics)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 1時限
【授業の学習内容と心構え】 臨床現場で長年にわたり患者管理に携わってきた教員が授業を行う。 臨床現場において、患者の病態管理をする上で様々なデータ処理が必要となる。患者のデータ処理法と統計処理を理解するために、統計学の基礎の理解が必須である。 本講義では、チームの一員として活躍できる言語聴覚士になるために、統計学の基礎を理解して、活用できる技術を学び、臨床現場で患者管理に携わる時に役立てて欲しい。							
【到達目標】 統計学的な考え方や基礎を理解し、実際の臨床で統計を活用できるようになることを目的とする。							
【使用教科書・教材・参考書】 授業内で適宜プリントを配布する。				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 統計学 基礎知識 ① 【授業形態】 講義 【到達目標】 統計学に必要な数学的基礎知識を整理する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 統計学 基礎知識 ② 【授業形態】 講義 【到達目標】 統計学が臨床現場で活用できるかを知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 確率とグラフ 【授業形態】 講義 【到達目標】 確率分布の意味を理解し、正規分布の特徴を説明できる。 データの標準化をおこなうことができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 標準偏差 【授業形態】講義 【到達目標】 標準偏差の計算と活用法を学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 統計処理の方法と活用 【授業形態】 講義 【到達目標】 統計処理の方法と臨床での活用方法を学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 課題と統計処理 ① 【授業形態】 講義 グループワーク 【到達目標】 課題を統計解析して検定する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 課題と統計処理 ② 【授業形態】 講義 グループワーク 【到達目標】 課題を統計解析して検定する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 定期試験 【到達目標】 統計学の臨床で活用できる基礎的知識の把握できる。			【評価について】 学則の評価基準に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	コンピューター I (Computer I)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 滋慶学園グループのコンピュータ関連企業に所属しており、複数の専門学校にて学生へのPC講義や教職員へのPC研修を実施している。 ＜学習内容＞ ・コンピュータネットワーク環境の適切な利用を学ぶ ・Wordで複合文書を作成する ・Excelの基本操作やデータベース、効果的なグラフの作成方法を学ぶ”							
【到達目標】 ・新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる ・Wordを利用し、複合文書の作成ができる ・Excelを利用し、表計算や表、グラフの作成ができる							
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用				【授業外における学習】 次回講義までに不明な操作をe-learning(インターネット上のテキスト)で確認しておく			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 CCT入門1 【授業形態】 演習 【到達目標】 講座を受講する意義を理解し、PCの基本操作ができる			9	【授業単元】 CCT入門4 【授業形態】 演習 【到達目標】 Excelの基本操作ができる		
2	【授業単元】 CCT入門2 【授業形態】 演習 【到達目標】 新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる			10	【授業単元】 Excel基礎1 【授業形態】 演習 【到達目標】 企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる		
3	【授業単元】 Word基礎1 【授業形態】 演習 【到達目標】 文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる			11	【授業単元】 Excel基礎2 【授業形態】 演習 【到達目標】 関数を駆使した資料を作成できる		
4	【授業単元】 Word基礎2 【授業形態】 演習 【到達目標】 画像や図形を駆使した文書を作成できる			12	【授業単元】 Excel基礎3 【授業形態】 演習 【到達目標】 グラフを駆使した資料を作成できる		
5	【授業単元】 Word基礎3 【授業形態】 演習 【到達目標】 表を駆使した文書を作ることができる			13	【授業単元】 Excel応用A(データベース) 【授業形態】 演習 【到達目標】 データベース機能を理解し活用できる		
6	【授業単元】 Word応用 【授業形態】 演習 【到達目標】 長文作成における必要な操作ができる			14	【授業単元】 Excel試験対策 【授業形態】 演習 【到達目標】 Excel基礎で習ったことを実践できる		
7	【授業単元】 Word試験対策 【授業形態】 演習 【到達目標】 Word基礎で習ったことを実践できる			15	【授業単元】 Excel試験・解答解説 【授業形態】 演習 【到達目標】 前期定期試験 Excel資料作成		
8	【授業単元】 Word中間・解答解説 【授業形態】 演習 【到達目標】 前期中間試験 Word資料作成			【評価方法について】 評価は実技試験で行い、授業内で説明した機能の理解、操作の定着度を確認する。 中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	コンピューターⅡ (ComputerⅡ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 滋慶学園グループのコンピュータ関連企業に所属しており、複数の専門学校にて学生へのPC講義や教職員へのPC研修を実施している。 ＜学習内容＞ ・Excelを用いた基礎的な統計処理 F検定(分散の検定) 、t検定(独立2標本の母分散が等しい平均値の差、独立2標本の母分散が等しくない平均値の差) ・PowerPointを利用して、聴衆者に訴求力のある効果的なスライドを作成する							
【到達目標】 ・Excelを用いた基礎的な統計処理ができる ・PowerPointを利用し、効果的なスライドの作成ができる							
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用				【授業外における学習】 次回講義までに不明な操作をe-learning(インターネット上のテキスト)で確認しておく			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 データリテラシー 【授業形態】 演習 【到達目標】 データを読み解くための基本的な知識を身につけて、適正かつ有効に活用できる			9	【授業単元】 PowerPointダイジェスト 【授業形態】 演習 【到達目標】 スライド作成の基本的な操作ができる		
2	【授業単元】 初級データサイエンス(統計編)1 【授業形態】 演習 【到達目標】 データの特徴を数値化できる (平均、分散、標準偏差)			10	【授業単元】 プレゼン基礎1(設計) 【授業形態】 演習 【到達目標】 何を伝えるかを簡潔に示したスライド作成の設計ができる		
3	【授業単元】 初級データサイエンス(統計編)2 【授業形態】 演習 【到達目標】 データの特徴を視覚化できる1 (基本統計量、度数分布表とヒストグラム)			11	【授業単元】 プレゼン基礎2+3(図解、表・図表) 【授業形態】 演習 【到達目標】 レイアウト、配色等、デザインに考慮した図解を作成できる 表の活用・図表の効果的な表現をすることができる		
4	【授業単元】 初級データサイエンス(統計編)3 【授業形態】 演習 【到達目標】 データの特徴を視覚化できる2 (散布図、相関係数)			12	【授業単元】 PowerPoint(ブラッシュアップ) 【授業形態】 演習 【到達目標】 フォントや配色などを工夫して見やすいスライドに編集できる		
5	【授業単元】 初級データサイエンス(統計編)4 【授業形態】 演習 【到達目標】 統計的検定を実施できる1 (F検定、t検定)			13	【授業単元】 PowerPoint4(発表) 【授業形態】 演習 【到達目標】 作成したスライドを使って発表できる		
6	【授業単元】 初級データサイエンス(統計編)5 【授業形態】 演習 【到達目標】 統計的検定を実施できる2 (F検定、t検定)			14	【授業単元】 PowerPoint試験対策 【授業形態】 演習 【到達目標】 PowerPoint授業で習ったことを実践できる		
7	【授業単元】 初級データサイエンス試験対策 【授業形態】 演習 【到達目標】 初級データサイエンス(統計編)で習ったことを実践できる			15	【授業単元】 PowerPoint試験 【授業形態】 演習 【到達目標】 定期試験 PowerPoint資料作成		
8	【授業単元】 初級データサイエンス中間試験 【授業形態】 演習 【到達目標】 中間試験 Excelを活用した統計処理			【評価方法について】 評価は実技試験で行い、授業内で説明した機能の理解、操作の定着度を確認する。 中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	英語 I (English Conversation I)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 5時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 中高の英語の教員免許を持ち、英語圏に長期留学経験のある教員が担当する。1回目の授業では、今後の進め方の参考のために45分程度の英語の試験(中1～高3程度)を行うので、必ず出席すること。学期中8回小テストを行うので、小テストの回は可能な限り出席すること(欠席の場合は翌週に実施する)。							
【到達目標】 言語聴覚士として働く際に最低限必要となる英語力の基礎知識・能力を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 『医療英語コミュニケーション』				【授業外における学習】 小テストがある回は復習をするように心がけてください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 授業の説明 及び プレシメンステスト 【授業形態】 講義 【到達目標】 オリエンテーション			9	【授業単元】 定期課題準備 【授業形態】 講義 【到達目標】 期末課題の準備をする		
2	【授業単元】 小テスト① 1章:受付 【授業形態】 講義 【到達目標】 受付での患者対応ができる			10	【授業単元】 小テスト⑤ 5章:問診(1)既往歴・家族歴 【授業形態】 講義 【到達目標】 患者の症状を理解することができる		
3	【授業単元】 小テスト② 2章:病院内 【授業形態】 講義 【到達目標】 病院内の診療科を説明することができる 各診療科への案内ができる			11	【授業単元】 小テスト⑥ 6章:問診(2)アレルギー・生活習慣 【授業形態】 講義 【到達目標】 アレルギーや生活習慣について問診できる		
4	【授業単元】 小テスト③ 3章:症状(1)痛み 【授業形態】 講義 【到達目標】 身体部位の英単語をおさえる どのような痛みか説明することができる			12	【授業単元】 小テスト⑦ 7章:身体計測・診療時の表現 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 診察時に必要な表現を理解する また適切に使用することができる		
5	【授業単元】 小テスト④ 4章:症状(2)その他 【授業形態】 講義 【到達目標】 症状を正確に伝えることができる どのような症状を抱えているのか質問することができる			13	【授業単元】 小テスト⑧ 16章:会計 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 会計時に必要な語や表現を覚え、適切に使用することができる		
6	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験を実施			14	【授業単元】 期末試験 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 定期試験を実施		
7	【授業単元】 中間試験解説と定期課題準備 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験の解説と、期末課題の準備をする			15	【授業単元】 定期試験解説と定期課題解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験の解説と、定期課題の解説		
8	【授業単元】 定期課題準備 【授業形態】 講義 【到達目標】 期末課題の準備をする			【評価方法について】 小テスト(20点満点) 実施方法: 授業時間内で実施 英文和訳(30点満点) 実施方法: 10回目の授業に提出 中間試験(25点満点) 実施方法: 6回目の授業時間内で試験を実施 定期試験(25点満点) 実施方法: 14回目の授業時間内で試験を実施”			
【特記事項】							

科目名 (英)	英語Ⅱ(医療英語) (English Conversation Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 中高の英語の教員免許を持ち、英語圏に長期留学経験のある教員が担当する。1回目の授業では、英語Iの復習をかねた45分程度の英語の試験を行うので、必ず出席すること。学期中9回小テストを行うので、小テストの週は可能な限り出席すること(欠席の場合は別日に実施する)。							
【到達目標】 言語聴覚士として働く際に最低限必要となる英語力の基礎知識・能力を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 『医療英語コミュニケーション』				【授業外における学習】 小テストがある週は復習をするように心がけてください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 単語テスト 【授業形態】 講義 【到達目標】 春学期に学習した内容を思い出す			9	【授業単元】 14章:リハビリテーション(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 リハビリに使用する器具の名称を正しく理解し、使用することができる		
2	【授業単元】 8章:バイタルサインの測定 【授業形態】 講義 【到達目標】 バイタルサインの説明ができる			10	【授業単元】 17章:処方箋と薬の説明 【授業形態】 講義 【到達目標】 処方箋や、薬の使用方法を説明できるようになる		
3	【授業単元】 9章:外科 【授業形態】 講義 【到達目標】 手術の説明や、術後の状態を説明できる			11	【授業単元】 18章:カルテ 【授業形態】 講義 【到達目標】 カルテに書かれる可能性のある語について、正しく理解することができる		
4	【授業単元】 10章:検査と処置 【授業形態】 講義 【到達目標】 検査や処置について説明することができる			12	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験を実施		
5	【授業単元】 11章:救急患者 【授業形態】 講義 【到達目標】 現場の状況や患者の状態を把握し、適切に伝えることができる			13	【授業単元】 定期試験の解説及び口頭発表準備 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験の解説をする。その後口頭発表の準備をする。		
6	【授業単元】 12章:整形外科・整骨院 【授業形態】 講義 【到達目標】 骨の名称を覚え、使用することができる			14	【授業単元】 口頭発表準備 【授業形態】 講義 【到達目標】 口頭発表の準備をする		
7	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験を実施			15	【授業単元】 口頭発表 【授業形態】 講義 【到達目標】 口頭発表を実施		
8	【授業単元】 13章:リハビリテーション(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 リハビリテーションを説明できるようになる			【評価方法について】 小テスト(20点満点) 実施方法: 授業時間内で実施 口頭発表(30点満点) 実施方法: 15回目の授業で実施 中間試験(25点満点) 実施方法: 7回目の授業時間内で試験を実施 定期試験(25点満点) 実施方法: 12回目の授業時間内で試験を実施			
【特記事項】							

科目名 (英)	保健体育 (Health and Physical Education)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 2時限
学科・専攻	言語聴覚士科						
【授業の学習内容と心構え】 レクリエーションコーディネーターの資格を有し、地域において数多くの健康づくりに従事してきた講師が授業を行う。世界的な健康増進の動向の中では心への注目も高い。言語聴覚士のスペシャリストとして各々の現場や事業において人々の「心を元気にすること」「コミュニケーション能力を高める学び」を理解するための授業を行う。							
【到達目標】 障がいがあるなしにかかわらず、子どもから高齢者まで誰もが、楽しさと心の元気づくりを気軽に楽しく、豊かな交流ができるような機会を専門家として養成する。							
【使用教科書・教材・参考書】 「レクリエーション支援の基礎」「運動実践指導者用テキスト」「これからの健康とスポーツの科学」「障がい者スポーツテキスト」				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 レクリエーション概論 【授業形態】 講義 【到達目標】 レクリエーション支援を理解する			9	【授業単元】 レクリエーション活動の展開法Ⅰ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 目標設定の原則を理解する		
2	【授業単元】 楽しさと心の元気づくりの理論 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 温かくもてなす意識と配慮を理解する ライフステージと心の元気づくりを理解する			10	【授業単元】 レクリエーション活動の展開法Ⅱ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 レクリエーション活動を対象者に合わせるアレンジ法を学ぶ		
3	【授業単元】 良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング1 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 アイスブレイキングの効果を高める 自主性・主体性の引き出し方を理解する			11	【授業単元】 レクリエーション活動の展開法Ⅲ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 技術を分別しゲーム化する方法を習得する		
4	【授業単元】 良好な集団づくりの方法アイスブレイキング2 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 コミュニケーション能力を高める レクリエーション活動を楽しむ力を育む			12	【授業単元】 コミュニケーション技術の活用方法Ⅰ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 プログラム指導案作成方法を習得する1 成功体験を支え合う対象者との関りをつなぐ		
5	【授業単元】 コミュニケーションと信頼関係の理論 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 対象者との信頼関係を理解する「ジョハリの窓」			13	【授業単元】 コミュニケーション技術の活用方法2 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 てづくりイベント発表の効果を習得する		
6	【授業単元】 良好な集団づくりの理論 ホスピタリティ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 対象者の気持ちを受け止める・受け止めていることを伝える			14	【授業単元】 レクリエーション支援の実際・総括 【授業形態】 講義 【到達目標】 学習成果を振り返り気づきを明確化する		
7	【授業単元】 自主的・主体的に楽しむ力を育む理論 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 段階をおって変化するやる気の動機付け			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 本講義で学習する知識を確認する		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 本講義で学習する知識を確認する			【評価について】 筆記試験で中間試験40点、定期試験60点の合計100点満点で評価する。 評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	医学総論 (Introduction to Medicine)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 3限目
【授業の学習内容と心構え】 看護師の資格を有し、自身が大学院で習得し、大学で授業、国家試験対策経験を持つ教員が授業を行う。言語聴覚士に必要なと思われる公衆衛生学、予防医学について将来役に立つように、体験談も取り入れながら講義する。過去問での復習を行い、学生自身が考え、学生間で知識の共有・理解を目指す。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な公衆衛生学、予防医学の基礎知識を理解して修得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士テキスト 配布資料				【授業外における学習】 専門用語の理解			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】健康とは 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】WHOの健康定義、健康の指標、ライフサイクル、発達段階・課題について理解する			9	【授業単元】母子保健 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】妊産婦死亡率、小児死亡率の母子保健を理解する。		
2	【授業単元】障がいの概念 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】国際生活機能分類(ICF)の概念について理解する。			10	【授業単元】老人保健 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】高齢化社会、介護等の現状、問題点を理解する。		
3	【授業単元】医の倫理 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】基本的人権と医の倫理、医療事故を理解する。			11	【授業単元】精神保健 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】ストレス、精神疾患、薬物依存、自殺の現状を理解する		
4	【授業単元】臨床医学研究と倫理 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】臨床医学研究、EBMについて理解する。			12	【授業単元】感染症対策 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】感染源、経路、予防策を理解する。		
5	【授業単元】人口動態 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】日本の人口の推移、出産と死亡、死因について理解する。			13	【授業単元】環境保健 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】環境破壊の現状を理解する		
6	【授業単元】疾病予防 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】疾病の危険因子とその予防を理解する。			14	【授業単元】公害薬害 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】公害・薬害を理解する		
7	【授業単元】生活習慣病 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】高血圧、糖尿病、高脂血症などの予防を理解する。			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 中間試験の40点と定期試験の60点で評価する。学則の評価基準に準ずる			
【特記事項】 専門用語が多いので、その都度覚えるように心がける。内科学において は、生理学・病理学の知識が必要となるのでよく復習をすること。							

科目名 (英)	解剖学I (Anatomy I)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 歯科医師の資格を有する講師が授業を担当する。言語聴覚士は、チーム医療の一員として重要な役割を担う。医療従事者として臨床を行う為にも人体の構造やメカニズムの理解は基本となる。生理学を学ぶ上でも体を構成する細胞の機能を肉眼解剖的に理解することが必要とされる。専門用語が多くでてくるが、一つ一つ慣れながら復習していくこと。							
【到達目標】 体の基本構造および機能を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 人体の構造と機能 医歯薬出版 第5版				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 からだの構造、細胞、組織、器官 【授業形態】 講義 【到達目標】 体の基本構造について理解する。			9	【授業単元】 内分泌系I 【授業形態】 講義 【到達目標】 体の内部環境を整えるホルモンについて理解する。		
2	【授業単元】 運動系(骨格、筋肉) 【授業形態】 講義 【到達目標】 体の軸となる骨格、関節、筋肉を理解する。			10	【授業単元】 内分泌系II 【授業形態】 講義 【到達目標】 体の内部環境を整えるホルモンについて理解する。		
3	【授業単元】 神経系(神経細胞の構造)I 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経細胞の構造や機能を理解する。			11	【授業単元】 消化器系I 【授業形態】 講義 【到達目標】 消化器系の構造について理解する。		
4	【授業単元】 神経系(中枢神経、末梢神経)II 【授業形態】 講義 【到達目標】 中枢神経、末梢神経について理解する。			12	【授業単元】 消化器系II 【授業形態】 講義 【到達目標】 消化・吸収・排泄のしくみを理解する。		
5	【授業単元】 循環器系I 【授業形態】 講義 【到達目標】 心臓の構造や心臓を中心とする血液の循環を理解する。			13	【授業単元】 泌尿器系 【授業形態】 講義 【到達目標】 腎臓の構造・働きについて理解する。		
6	【授業単元】 循環器系II 【授業形態】 講義 【到達目標】 血液・リンパについて理解する。			14	【授業単元】 感覚器系 【授業形態】 講義 【到達目標】 特殊感覚・体温調節ついて理解する。		
7	【授業単元】 呼吸器系 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸のしくみ(外呼吸・内呼吸)について理解する。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 学則に準じて行う。			
【特記事項】							

科目名 (英)	病理学 Pathology	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	前期 曜日・時間 火曜日 4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 病院、医療センターにおいて臨床検査技師、細胞検査士、国際細胞検査士として臨床(病理検査、細胞診)業務に携わり、また臨床検査技師学校および看護学校での教育経験を有する教員が本講義を担当します。これから勉強していく専門科目への基礎及び橋渡しとなる重要科目となりますので、しっかりと予習、復習をして講義に臨んでください。							
【到達目標】 生理学や解剖学で学んだ知識を基に病気の原因や成り立ちについて理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 病理学概論				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 病理学とはどのような学問か。 【授業形態】 講義 【到達目標】 病理学を学ぶことの意義について。			9	【授業単元】 肥大、過形成、化生、創傷治癒過程など 【授業形態】 講義 【到達目標】 代謝障害における細胞や組織の形態変化について理解し、説明できる。		
2	【授業単元】 内因性と外因性 【授業形態】 講義 【到達目標】 病気の発生要因について理解し、説明できる。			10	【授業単元】 萎縮、変性、壊死、アポトーシス 【授業形態】 講義 【到達目標】 代謝障害における細胞や組織の形態変化について理解し、説明できる。		
3	【授業単元】 先天性異常・奇形 【授業形態】 講義 【到達目標】 染色体や遺伝子の異常によって起こる疾患について理解し説明できる。			11	【授業単元】 腫瘍1 【授業形態】 講義 【到達目標】 腫瘍とは、また良性腫瘍と悪性腫瘍の違いについて理解し説明できる。		
4	【授業単元】 循環障害1 【授業形態】 講義 【到達目標】 血管系、リンパ系の循環障害について理解し、説明できる。			12	【授業単元】 腫瘍2 【授業形態】 講義 【到達目標】 腫瘍とは、また良性腫瘍と悪性腫瘍の違いについて理解し説明できる。		
5	【授業単元】 循環障害2 【授業形態】 講義 【到達目標】 血管系、リンパ系の循環障害について理解し、説明できる。			13	【授業単元】 腫瘍3 【授業形態】 講義 【到達目標】 腫瘍とは、また良性腫瘍と悪性腫瘍の違いについて理解し説明できる。		
6	【授業単元】 炎症1 【授業形態】 講義 【到達目標】 炎症の概念、メカニズムについて理解し、説明できる。			14	【授業単元】 アレルギー性疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 アレルギー、自己免疫性疾患について理解し説明できる。		
7	【授業単元】 炎症2 【授業形態】 講義 【到達目標】 炎症の概念、メカニズムについて理解し、説明できる。			15	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験40点、定期試験60点により評価する。			
【特記事項】 中間試験、定期試験実施後はまとめ等の講義を行います。							

科目名 (英)	生理学 Physiology	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 医療従事者が必ず学ばなければならない基礎医学の重要分野としての生理学の講義を行います。人の体の機能についての知識を習得し、これから学 ぶ言語聴覚士専門科目への基礎及び橋渡しにしてください。講義に際しては、しっかりと予習、復習をして望むことを希望します。							
【到達目標】 人の体の正常な機能を学び、それぞれの項目について説明ができるようにする。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 循環器1 【授業形態】 講義 【到達目標】 心臓を中心とした血液循環の仕組みについて学び、理 解する			9	【授業単元】 消化器系2 【授業形態】 講義 【到達目標】 食物を摂取して消化、吸収、排泄されるまでの仕組みと 働きについて理解し、説明できる。 小腸、大腸		
2	【授業単元】 循環器2 【授業形態】 講義 【到達目標】 心臓の構造と機能について理解する。			10	【授業単元】 消化器系3 【授業形態】 講義 【到達目標】 食物を摂取して消化、吸収、排泄されるまでの仕組みと 働きについて理解し、説明できる。 肝臓		
3	【授業単元】 循環器3 【授業形態】 講義 【到達目標】 血圧を含む循環器系について説明ができる。			11	【授業単元】 内分泌系1 【授業形態】 講義 【到達目標】 体の恒常性を維持するホルモンの役割について説明でき る。甲状腺、副甲状腺		
4	【授業単元】 呼吸器1 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸の役割、呼吸の仕組みについて説明できる。			12	【授業単元】 内分泌系2 【授業形態】 講義 【到達目標】 体の恒常性を維持するホルモンの役割について説明でき る。下垂体		
5	【授業単元】 呼吸器2 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸の役割、呼吸の仕組みについて説明できる。			13	【授業単元】 内分泌系3 【授業形態】 講義 【到達目標】 体の恒常性を維持するホルモンの役割について説明でき る。副腎		
6	【授業単元】 呼吸器3 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸の役割、呼吸の仕組みについて説明できる。			14	【授業単元】 内分泌系4 【授業形態】 講義 【到達目標】 体の恒常性を維持するホルモンの役割について説明でき る。その他		
7	【授業単元】 消化器系1 【授業形態】 講義 【到達目標】 食物を摂取して消化、吸収、排泄されるまでの仕組みと 働きについて理解し、説明できる。 食道、胃			15	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験40点、定期試験60点により評価する。			
【特記事項】 中間試験、定期試験実施後はまとめ等の講義を行います。							

科目名 (英)	内科学 (Internal Medicine)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 3限目
【授業の学習内容と心構え】 看護師として大学病院、一般病院での臨床経験を持ち、医療系の国家試験対策授業の経験を持つ教員が授業を行う。疾病の原因・病態・治療・予防・予後等について学生自身が考え疾患に興味を持ちるように解剖生理学との関連性をふまえた講義を行う。							
【到達目標】 解剖生理学を理解した上で、人体の機能の正常と異常が理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 内科学				【授業外における学習】 予習にてわからない専門用語について調べておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】内科学総論 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】 臨床医学の相対的な知識を習得する。EBM証拠に基づいた医療の必要性について理解する。			9	【授業単元】循環器疾患(1) 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】 虚血性心疾患の原因・治療・予防について理解する。		
2	【授業単元】臨床とその臨床的意義 (1) 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】 症状について理解する。(発熱、黄疸、チアノーゼ、脱水)			10	【授業単元】循環器疾患(2) 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】 先天性心疾患、不整脈について理解する。		
3	【授業単元】臨床とその臨床的意義 (2) 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】 症状について理解する。(胸痛、動機、ショック、呼吸困難)			11	【授業単元】消化器疾患 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】消化管疾患について理解する。		
4	【授業単元】感染症 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】感染症の症状、診断、治療について理解する。			12	【授業単元】代謝疾患 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】糖尿病、脂質異常、痛風について理解する。		
5	【授業単元】アレルギー疾患 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】 免疫反応およびアレルギー疾患、自己免疫疾患について理解する。			13	【授業単元】内分泌疾患 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】 ホルモン代謝障害による内分泌異常について理解する。		
6	【授業単元】呼吸器疾患(1) 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】 炎症性、アレルギー性の呼吸器疾患について理解する。			14	【授業単元】血液・腎疾患 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】 血液・腎疾患について理解する。(貧血・腎不全)		
7	【授業単元】呼吸器疾患(2) 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】 換気障害(拘束性、閉塞性)肺疾患、特殊な肺疾患 について理解する。			15	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】		
8	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】			【評価について】 学則の評価基準に準ずる			
【特記事項】 生理学・病理学の知識が必要となるのでよく復習をすること。試験の直後にわからなかった問題の確認自己学習をすること。							

科目名 (英)	小児科学 (Pediatrics)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 医師、医学博士、アメリカ合衆国留学などを経験。 小児科学、特に小児神経学専門の医師として40年勤務。医学系・福祉系大学の客員教授・講師なども歴任。脳性麻痺、知的障害、自閉症スペクトラム障害、コミュニケーション障害、多動性障害、てんかんなどの診療・リハビリテーションに従事する。 学生諸君には受動的ではなく、能動的な講義参加を期待する。授業中にはいつでも質問をしてくまわない。活発な議論を期待する。							
【到達目標】 1. 小児科学の特徴を理解する 2. 小児の保健学を理解する 3. 小児の正常な成長発達過程を理解する 4. 小児STの主たる対象疾患である脳性麻痺、知的障害、自閉症スペクトラム障害、コミュニケーション障害、多動性障害などを十分に理解する							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学 第3版 医学書院				【授業外における学習】 参考となる図書やDVDを、授業中に紹介する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 小児科学・小児リハビリ学概論 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児科学・小児リハビリ学の特徴を理解する 課題レポートの作成方法について説明する。			9	【授業単元】 小児神経疾患 その4 【授業形態】 講義 【到達目標】 自閉症は頻度が高く、また特有の症状を呈するため、リハビリは複雑である 自閉症とそのリハビリ・生活指導について学ぶ		
2	【授業単元】 小児保健および公衆衛生学 その1 【授業形態】 講義 【到達目標】 日本の出生率 乳児死亡 平均寿命など基礎的な公衆衛生の知識を身につける			10	【授業単元】 小児神経疾患 その5 【授業形態】 講義 【到達目標】 てんかんは頻度が高く、また脳の機能を理解する上でも重要な疾患である てんかんの原因・症状・発作時の対応方法・治療方法について学ぶ		
3	【授業単元】 小児の成長と発達 その1 【授業形態】 講義 【到達目標】 定型的な身体成長および知能運動機能の発達を学ぶ			11	【授業単元】 小児神経疾患 その6 【授業形態】 講義 【到達目標】 注意不足多動性障害(ADHD)、学習障害などについて、特にリハビリの立場に重点を置いて学ぶ		
4	【授業単元】 小児の成長と発達 その2 【授業形態】 講義 【到達目標】 上記に同じ			12	【授業単元】 内部疾患 その1 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児の循環器疾患(特に先天性心疾患)について、特にリハビリとの関連で学ぶ		
5	【授業単元】 新生児と新生児疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 母体内環境から外部環境への劇的な変化とその適応 新生児特有の疾患について学ぶ			13	【授業単元】 内部疾患 その2 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児の呼吸器疾患(特に気管支喘息)について、特にリハビリとの関連で学ぶ		
6	【授業単元】 小児神経疾患 その1 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動障害を呈する疾患 特に脳性麻痺は小児のリハビリにおいて重要である 脳性麻痺の原因・症状・リハビリについて学ぶ			14	【授業単元】 内部疾患 その3 【授業形態】 講義 【到達目標】 内分泌・腎臓・消化器などの疾患について、特にリハビリとの関連で学ぶ		
7	【授業単元】 小児神経疾患 その2 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動障害を呈する疾患 筋ジストロフィー 脊髄性筋萎縮症などについて学ぶ			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 記述式と選択式とを併用で行う予定である。教科書と授業内容とを十分に復習されたい。		
8	【授業単元】 小児神経疾患 その3、中間試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 知的障害は頻度が高く、小児リハビリにおいて重要である 原因・重症度・リハビリ・生活指導などを学ぶ 知能テストも含む			【評価方法について】 課題レポート 講義進行の中間地点で行う中間試験40点 最後の定期試験60点(点数は合算)より評価する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	耳鼻咽喉科学 Otolaryngology	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 病院、医療センターにおいて臨床検査技師、細胞検査士、国際細胞検査士として臨床(病理検査、細胞診)業務に携わり、また臨床検査技師学校および看護学校での教育経験を有する教員が本講義を担当します。これから勉強していく専門科目への基礎及び橋渡しとなる重要科目となりますので、しっかりと予習、復習をして講義に臨んでください。							
【到達目標】 耳鼻咽喉科領域について解剖生理、疾病の概念、症状、治療法を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 SUCCESS耳鼻咽喉科				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 鼻科学1 【授業形態】 講義 【到達目標】 鼻疾患の概念、症状、治療法について説明できる。			9	【授業単元】 口腔・咽頭科学3 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔・咽頭疾患の概念、症状、治療法について説明できる。		
2	【授業単元】 鼻科学2 【授業形態】 講義 【到達目標】 鼻疾患の概念、症状、治療法について説明できる。			10	【授業単元】 口腔・咽頭科学4 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔・咽頭疾患の概念、症状、治療法について説明できる。		
3	【授業単元】 鼻科学3 【授業形態】 講義 【到達目標】 鼻疾患の概念、症状、治療法について説明できる。			11	【授業単元】 喉頭科学1 【授業形態】 講義 【到達目標】 喉頭疾患の概念、症状、治療法について説明できる。		
4	【授業単元】 鼻科学4 【授業形態】 講義 【到達目標】 鼻疾患の概念、症状、治療法について説明できる。			12	【授業単元】 喉頭科学2 【授業形態】 講義 【到達目標】 喉頭疾患の概念、症状、治療法について説明できる。		
5	【授業単元】 鼻科学5 【授業形態】 講義 【到達目標】 鼻疾患の概念、症状、治療法について説明できる。			13	【授業単元】 喉頭科学3 【授業形態】 講義 【到達目標】 喉頭疾患の概念、症状、治療法について説明できる。		
6	【授業単元】 口腔・咽頭科学1 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔・咽頭疾患の概念、症状、治療法について説明できる。			14	【授業単元】 喉頭科学4 【授業形態】 講義 【到達目標】 喉頭疾患の概念、症状、治療法について説明できる。		
7	【授業単元】 口腔・咽頭科学2 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔・咽頭疾患の概念、症状、治療法について説明できる。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験40点、定期試験60点により評価する。			
【特記事項】 中間試験、定期試験実施後はまとめ等の講義を行います。							

科目名 (英)	臨床神経学 (Clinical Neurology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 看護師の資格を有し、言語障害・聴覚障害・嚥下障害を持った方に実際に接してきた教員が、臨床現場での経験を活かし、脳神経疾患が習得できる授業を行う。大学、専門学校での授業経験を活かし、学生主体のグループワークを取り入れた授業形態とし、学生自身が考え、学生間で知識の共有・理解を目指す。神経系の構造・機能・病態で学んだ事を復習をして授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 脳神経の構造・機能・病態で学んだ知識をもとに、脳神経にに関する疾患を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 病気がみえる Vol.7 脳・神経 第2版 言語聴覚士テキスト				【授業外における学習】 予め授業範囲の教科書に目を通して、疑問点を明らかにしておくこと			
回				回 授 業 概 要			
1 【授業単元】脳血管障害 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脳血管障害の分類を説明することが出来る。				9 【授業単元】頭部外傷 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 頭部外傷について説明することが出来る			
2 【授業単元】脳梗塞 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脳梗塞について説明することが出来る。 一過性脳虚血発作について説明することが出来る。				10 【授業単元】認知症 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 認知症について説明することが出来る			
3 【授業単元】脳内出血 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脳内出血について述べることが出来る。				11 【授業単元】神経変性疾患(パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症) 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 パーキンソン病について説明することが出来る 筋萎縮性側索硬化症について説明することが出来る。			
4 【授業単元】くも膜下出血 脳血管疾患のリハビリテーション 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 くも膜下出血について述べることが出来る。 脳血管疾患のリハビリテーションについて説明することが出来る。				12 【授業単元】末梢神経障害(ニューロパチー・ギランバレー症候群) 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 末梢神経障害(ニューロパチー)について説明することが出来る ギランバレー症候群について説明することが出来る			
5 【授業単元】水頭症・頭蓋内圧亢進症・脳ヘルニア 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 水頭症について説明することが出来る。 頭蓋内圧亢進症状、脳ヘルニアについて説明することが出来る。				13 【授業単元】筋疾患(筋ジストロフィー・重症筋無力症) 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 筋ジストロフィーについて説明することが出来る。 重症筋無力症について説明することが出来る。			
6 【授業単元】脊髄疾患・脊髄損傷 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脊髄の構造・機能について説明できる。 脊髄損傷の部位による症状を説明することが出来る。				14 【授業単元】 てんかん 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 てんかんについて説明することが出来る			
7 【授業単元】脳腫瘍 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脳腫瘍について説明することが出来る。				15 【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】筆記試験 【到達目標】 筆記試験60点満点 60%で合格			
8 【授業単元】中間試験、解答解説 【授業形態】筆記試験 【到達目標】 筆記試験40点満点 60%で合格				【評価について】 試験規定に準ずる			
【特記事項】 毎回授業のワークシートを記入すること。							

科目名 (英)	形成外科学 (Plastic Surgery)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 5限目
【授業の学習内容と心構え】 看護師の資格を有し、美容皮膚科、美容形成外科での勤務経験を持ち、医療系の国家試験対策授業の経験を持つ教員が授業を行う。言語聴覚士の職務に必要な皮膚の構造と機能、形成外科学的処置後の変化がイメージしやすいように、視覚資料を取り入れながら講義を行う。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な形成外科学の基礎知識を理解して修得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準形成外科学 言語聴覚士テキスト				【授業外における学習】 専門用語の理解			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 皮膚移植 【授業形態】 GW＋講義 【到達目標】 皮膚の構造、植皮、皮弁、Z形成術を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 熱傷 【授業形態】 GW＋講義 【到達目標】 熱傷の診断、治療を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 顔面神経麻痺 【授業形態】 GW＋講義 【到達目標】 顔面神経麻痺の診断、治療を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 GW＋講義 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 口唇裂・口蓋裂 【授業形態】 GW＋講義 【到達目標】 口唇裂・口蓋裂の診断、治療を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 顔面先天異常 【授業形態】 GW＋講義 【到達目標】 顔面先天異常の発症機序、病態を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 難治性潰瘍、眼瞼下垂 【授業形態】 GW＋講義 【到達目標】 難治性潰瘍、眼瞼下垂の病態、治療を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 中間試験の40点と定期試験の60点で評価する。学則の評価基準に準ずる			
【特記事項】 専門用語が多いので、その都度覚えるように心がける。内科学において は、生理学・病理学の知識が必要となるのでよく復習をすること。							

科目名 (英)	臨床歯科医学・口腔外科学I (Clinical Dentistry and Dental Surgery I)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 歯科医師の資格を有し、解剖学や組織学等の教育経験を持つ講師が授業を行う。基礎的な口腔解剖および歯科についての知識を習得する。							
【到達目標】 歯科領域における口腔解剖および口腔疾患を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 講義プリント(参考書:言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科、医歯薬出版(株))				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 口腔の概要I 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔周囲の解剖(大唾液腺、舌の構成など)について説明する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 口腔の概要II 【授業形態】 講義 【到達目標】 小唾液腺、歯の発生、歯の構造について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 歯と歯周組織の疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 う蝕、歯周病について説明できる。歯の形態異常について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 口腔粘膜疾患(I) 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔粘膜疾患について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 口腔粘膜疾患(II)・顎関節 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔粘膜疾患について説明できる。顎関節の構造・疾患について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 摂食・嚥下 【授業形態】 講義 【到達目標】 摂食・嚥下機序および嚥下に関わる解剖について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 学則の評価基準に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	呼吸発声発語系の構造・機能・病態Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	(Physical and Functional Diseases of the Respiratory SystemⅠ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	前期 木曜日 3・4時限
学科・コース	言語聴覚士科						
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として医療・福祉機関で長年にわたり小児～成人の呼吸発声発語障害児(者)の臨床経験を積み、神経筋疾患に起因する発声発語障害の臨床研究論文を執筆してきた教員が、呼吸・発声・発語系の構造・機能について理解を深められるように解剖生理学的知識を習得する授業を行なう。具体的に、解剖生理学的イメージを抱けるように呼吸発声発語障害児(者)の言語聴覚療法の実場面の動画を豊富に活用して、教授する。呼吸・発声・発語のメカニズムを専門用語を適切に使用して説明できるようになることを目標とする。言語聴覚士にとって必須の専門基礎知識であり、能動的に学習に取り組むように努めて受講してほしい。また、毎回実場面の動画を患者・ご家族に同意を得たうえで供覧するので、真摯な受講態度で講義に臨むこと。							
【到達目標】 呼吸・発声・発語の構造と機能を図と対比させて、説明できる。 呼吸機能障害・音声障害・構音障害・摂食嚥下障害を理解するための解剖・生理学的な専門基礎知識を習得し、病態を説明できる。 また、医学的な知識に裏づけられた評価や指導法の必須基礎技術を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 発声発語障害学第3版(医学書院)・配布資料				【授業外における学習】 毎回、練習問題を配布するため、復習すること。また、配布資料に理解すべきポイントを提示するため、ノートにまとめること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】呼吸①気道と肺の構造 【授業形態】講義 【到達目標】 気管・気管支・肺の構造と機能を説明できる			9	【授業単元】鼻咽腔の構造と鼻咽腔閉鎖機能 【授業形態】講義 【到達目標】 鼻咽腔の構造と鼻咽腔閉鎖機能に関与する筋の名称と作用、支配神経を説明できる。また、正常な鼻咽腔閉鎖機能の動態を内視鏡動画を視て、説明できる。		
2	【授業単元】呼吸②呼吸機構の枠組み 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 胸郭の構造と病態(胸郭変形)を説明できる。胸郭変形の臨床所見をみて、病態を判断できる。			10	【授業単元】鼻咽腔閉鎖不全に起因する開鼻声と子音の歪み 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 口蓋裂術後と神経筋疾患による鼻咽腔閉鎖不全に起因する開鼻声と子音の歪みが生じるメカニズムを説明できる。また、鼻咽腔閉鎖機能検査法を実施できる。		
3	【授業単元】呼吸③呼吸メカニズムを担う呼吸筋の作用 【授業形態】講義 【到達目標】 主呼吸筋と補助呼吸筋を説明できる。吸気と呼気の作用メカニズムを説明できる。ポンプハンドル・モーションとバケットハンドル・モーション胸郭変形の臨床所見をみて、病態を判断できる。			11	【授業単元】構音①構音器官の構造と舌筋群の作用 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 構音器官の構造名称と内舌筋群と外舌筋群の名称と作用、支配神経を説明できる。また、舌運動障害の検査法を実施できる。		
4	【授業単元】呼吸④呼吸機能検査について 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 肺機能検査(スパイロメトリー)の実施方法を理解し、結果の解釈ができる。拘束性換気障害と閉塞性換気障害の違いについて説明できる。発声に必要な呼吸機能検査を演習し、技法を習得する。			12	【授業単元】構音②表情筋の作用 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 表情筋の名称と作用、支配神経を説明できる。また、表情筋群の中でも上部表情筋と下部表情筋の神経支配の様式が異なることを説明できる。さらに、構音に関与する口唇・頬の運動障害の検査法を実施できる。		
5	【授業単元】喉頭①喉頭の軟骨と関節、内喉頭筋 【授業形態】講義 【到達目標】 喉頭を構成する軟骨と関節の名称と部位を説明できる。さらに声帯運動の開閉や声帯の伸長に関与する内喉頭筋の名称と作用を図示しながら説明できる。内喉頭筋の支配神経について説明できる。			13	【授業単元】構音③構音障害と摂食嚥下障害 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 小児と成人の構音障害と摂食嚥下障害を起こす原因疾患を列挙できる。また、小児と成人の構音障害と摂食嚥下障害を合併する症例を動画で提示し、病態を解釈できる。		
6	【授業単元】喉頭②外喉頭筋と咀嚼筋の協調運動 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 喉頭挙上や固定さらに開口・閉口運動を行う外喉頭筋と咀嚼筋の協調運動のメカニズムを説明できる。また、嚥下運動に関与するスクリーニングテストの技法を習得し、結果を解釈できる。			14	【授業単元】摂食嚥下のメカニズムと病態 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 摂食嚥下運動の5ステージおよび誤嚥のリスクについて説明できる。さらに、VF嚥下造影検査の実施方法と誤嚥所見から、誤嚥の病態分類を判定できる。		
7	【授業単元】喉頭③声帯の構造と音声障害の原因疾患 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 声帯の微細構造と音声障害の原因疾患の関連を説明できる。さらに、代表的な原因疾患の喉頭内視鏡動画を視ながら、嚙声や声の高さの異常などの音声サンプルを聴取し、各疾患の特徴を説明できる。			15	【授業単元】定期試験・終了後の解答解説 【授業形態】講義 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをし、課題を抽出する。抽出された課題の何がわからなかったのかを特定する。		
8	【授業単元】喉頭④VE嚥下内視鏡検査・中間テスト 【授業形態】講義・演習・試験 【到達目標】 VE嚥下内視鏡検査の実施方法と嚥下障害症例の特徴を説明できる。第1回～第8回の内容を筆記試験し、解答・解説し、不明・誤った問題を解けるように修正し、理解する。			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で、確認した知識・技術の理解・定着度を確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 毎授業において、指示した内容は必ずメモをとること。 健康・体調管理に留意して、可能な限り欠席しないこと。							

科目名 (英)	聴覚系の構造・機能・病態Ⅰ (Physical and Functional Diseases of the Auditory SystemⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 5時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として耳鼻咽喉科で難聴者のリハビリテーションを行い、言語聴覚士養成に十数年携わった教員が、聴器の構造と機能および病態について講義を行う。ただ、名称など覚えるのではなく構造的な仕組みおよび病気と関連付けることによって、理解し、説明できることを目指す。 受講に際しては、教科書の当該箇所を予習し講義に臨んでください。講義中はわからないことはそのままにせず、質問をしてください。また、講義後は講義ノート を良く復習し、知識を自分のものとして運用できるようにしましょう。							
【到達目標】 ①聴器の構造的配置を理解する。②聴器の機能について説明できる。③聴器の病態について説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 聴覚障害学 適宜資料配布				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】聴器の構造と機能 【授業形態】講義 【到達目標】 聴器の全景が描画出来る。 外耳・中耳・内耳・後迷路の区分が出来る。 外耳の構造と機能が説明できる。			9	【授業単元】聴器の病態 【授業形態】講義 【到達目標】 難聴の種類とオーディオグラムについて理解する。 伝音・感音・混合難聴 聴力型		
2	【授業単元】聴器の構造と機能 【授業形態】講義 【到達目標】 中耳の構造と機能が説明できる。 鼓膜 鼓室			10	【授業単元】聴器の病態 【授業形態】講義 【到達目標】 伝音機構の障害を説明できる。 外耳の疾患 中耳の疾患		
3	【授業単元】聴器の構造と機能 【授業形態】講義 【到達目標】 中耳の構造と機能が説明できる。 耳管 耳小骨 インピーダンス整合			11	【授業単元】聴器の病態 【授業形態】講義 【到達目標】 伝音機構の障害を説明できる。 中耳の疾患		
4	【授業単元】聴器の構造と機能 【授業形態】講義 【到達目標】 内耳の構造と機能が説明できる。 骨迷路と膜迷路 蝸牛			12	【授業単元】聴器の病態 【授業形態】講義 【到達目標】 感音機構の障害を説明できる。 内耳の疾患		
5	【授業単元】聴器の構造と機能 【授業形態】講義 【到達目標】 内耳の構造と機能が説明できる。 相殺効果 半規管 耳石器			13	【授業単元】聴器の病態 【授業形態】講義 【到達目標】 感音機構の障害を説明できる。 内耳の疾患		
6	【授業単元】聴器の構造と機能 【授業形態】講義 【到達目標】 聴覚伝導路の構造と機能について説明できる。 各神経核と機能 両耳聴効果			14	【授業単元】聴器の病態 【授業形態】講義 【到達目標】 感音機構の障害を説明できる。 後迷路の疾患		
7	【授業単元】聴器の構造と機能 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ここまで知識を問題演習を通じて確認する。 国試過去問の活用			15	【授業単元】後半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 ここまで学んだ知識をアウトプットする。 定期試験 解答解説		
8	【授業単元】前半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 ここまで学んだ知識をアウトプットする。 中間試験 解答解説			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	神経系の構造・機能・病態Ⅰ (Physical and Functional Diseases of the Auditory SystemⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 4限目
【授業の学習内容と心構え】 看護師の資格を有し、大学病院で言語障害・聴覚障害・嚥下障害を持った方に実際に接してきた教員が、臨床現場での経験を活かし、臨床現場に必要な脳神経の正常な形態・構造・機能を学生がイメージしやすいよう日常生活に関連させた授業を行う。大学、専門学校での授業経験を活かし、学生が自ら考え、学生間での知識の共有を目指す。							
【到達目標】 脳神経の構造・形態・機能を述べる事が出来る。言語聴覚士として必要な言語・聴覚・嚥下に関連する脳の構造・機能を述べる事が出来る。							
【使用教科書・教材・参考書】 人体の構造と機能 病気がみえる Vol.7 脳・神経 言語聴覚士テキスト				【授業外における学習】 予め授業範囲の教科書に目を通して、疑問点を明らかにしておくこと			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】神経系の全体像 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 中枢神経と末梢神経の違いを述べる事が出来る。			9	【授業単元】末梢神経(運動・感覚・自律神経) 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 末梢神経の分類について説明することが出来る。 運動の調節について説明することが出来る。 自律神経の主な機能について説明することが出来る。		
2	【授業単元】ニューロンの解剖・機能 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 ニューロンの解剖・機能を説明することが出来る。 シナプスにおける神経伝達の仕組みを説明することが出来る。			10	【授業単元】脳神経 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脳神経の名称を述べる事が出来る。 脳神経の構造・機能を説明することが出来る。		
3	【授業単元】大脳機能の全体像 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 大脳の解剖・機能を説明することが出来る。 機能局在について説明することが出来る。			11	【授業単元】運動の異常と麻痺 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 随意運動と筋緊張について説明することが出来る。 運動の障害について述べる事が出来る。		
4	【授業単元】大脳辺縁系・大脳基底核・間脳・小脳・脳幹 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 大脳辺縁系の解剖・機能を説明することが出来る。 大脳基底核の解剖・機能を説明することが出来る。 間脳・小脳・脳幹の解剖・機能を説明することが出来る。			12	【授業単元】高次脳機能(意識) 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 意識について説明することが出来る。		
5	【授業単元】脳構造の立体的理解 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脳の構造を立体的に説明することが出来る。			13	【授業単元】高次脳機能(言語・失語) 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 人間の言語の特殊性について述べる事が出来る。 失語の分類について説明することが出来る。		
6	【授業単元】脳血管の解剖 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脳血管の構造・機能について説明することが出来る。			14	【授業単元】記憶の分類について 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 記憶の分類について説明することが出来る。		
7	【授業単元】脳脊髄液 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脳脊髄液の解剖・機能について説明することが出来る。			15	【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】筆記試験 【到達目標】 筆記試験60点満点 60%で合格		
8	【授業単元】中間試験、解答解説 【授業形態】筆記試験 【到達目標】 筆記試験40点満点 60%で合格			【評価について】 中間試験(40点満点)定期試験(60点満点) 合計100点満点(60%で合格) 試験規定に準ずる。			
【特記事項】 試験でわからなかった事は、直後に自己学習して理解しておくこと。							

科目名 (英)	生涯発達心理学	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	(Life-long Developmental Psychology)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	後期
学科・コース	言語聴覚士科					曜日・時間	木曜日 1時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として乳児期から老年期までの臨床経験を持つ教員が授業を担当する。 ヒトは胎児期、乳児期、児童期、青年期、老年期には、その時期に特有な心の働きがみられる。生まれてから死ぬまでのように発達するのか、発達段階の特徴とその時期の課題を整理し、臨床に結び付く知識を身に付けられるように講義を行っていく。							
【到達目標】 発達心理学の用語、発達理論の基礎を理解する。 発達心理学が言語聴覚士にとってなぜ必要であるのかを理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学				【授業外における学習】 小テストを実施しますので復習を心がけてください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 心理学の流れと生涯発達心理学の位置づけ 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・オリエンテーション ・生涯発達心理学の成り立ちを説明できる。			9	【授業単元】 青年期の親子関係・友人関係・仲間関係 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・思春期の心と体の変化を説明できる。 ・思春期～青年期の対人関係の発達を説明できる。 ・自我同一性を説明できる。		
2	【授業単元】 発達の規定要因について 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・人間の発達に影響する諸説を整理する。 ・発達心理学に関連する理論の概要を説明できる。 ・臨界期について説明できる。			10	【授業単元】 青年期の知的機能 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・青年期の知的機能の特徴を説明できる。 ・青年期の記憶の発達とメカニズム説明できる。 ・子どもの特性に合わせた進学先説明できる。		
3	【授業単元】 発達理論① ピアジェの認知発達理論 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・ピアジェの発達段階を説明できる。 ・ピアジェの認知発達観を説明できる。			11	【授業単元】 成人期の職業生活・家族生活・ワークライフバランス 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・成人期の発達を説明できる。 ・ワークライフバランスを説明できる。		
4	【授業単元】 発達理論② エリクソンの発達理論 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・エリクソンの発達理論と発達課題を説明できる。 ・フロイトの精神分析学(心理学的発達理論)を説明できる。			12	【授業単元】 老年期のエイジングと生きがい、知的機能の変化 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・老年期の発達を説明できる。 ・老年期の知的機能・身体機能を説明できる。 ・認知症を説明できる。		
5	【授業単元】 乳幼児期の知覚・認知発達、アタッチメント(愛着) 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・乳幼児の認知発達とその研究方法を説明できる。 ・アタッチメントの発達を説明できる。			13	【授業単元】 人の生きる意味と死の受容 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・「人の生きる意味」についてディスカッションを行う。 ・死の受容、死の準備教育、ホスピスケアを説明できる。		
6	【授業単元】 子どもの遊びと社会的認知の発達 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・遊びの発達を説明できる。 ・社会的認知の発達を説明できる。			14	【授業単元】 講義の復習 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・これまでの授業の復習を行う。		
7	【授業単元】 言語聴覚士と生涯発達心理学の関係性・授業前半の復習 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・遊びの発達を説明できる。 ・社会的認知の発達を説明できる。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 ・中間試験(40点満点) ・定期試験(60点満点) ・中間試験と定期試験の合計100点満点で、評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語学Ⅰ (LinguisticsⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 大学院で言語学・音声学の知識を学び、研究をしていた教員が、日本語を観察・分析する授業を行う。 人間が話す言葉を様々な角度から観察することで、今まで気づかなかった日本語の特徴を客観的に観察してほしい。 また、他言語との比較などを通して、日本語の様々な面白さを発見してほしい。							
【到達目標】 言語学の様々な分野における基礎知識を身につけ、科学的に言語を分析する視点を身につける。 国家試験に出題されるようなレベルの問題を解けるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 『言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学 第2版』(医学書院)、 プリント配布				【授業外における学習】 専門用語が多く出てくるので、毎回復習をして知識を定着させること。 日常生活の中でも日本語を客観的に考える癖をつけること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 言語の基本的な性質 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語とは何かという説明ができる。 言語の基本的性質や用語の意味を理解できる。			9	【授業単元】 形態論④:動詞の形成と形態素分析 【授業形態】 講義 【到達目標】 動詞を形成する要素となるヴォイス(態)について理解できる。 形態素分析の基礎を理解できる。		
2	【授業単元】 音韻論 【授業形態】 講義 【到達目標】 音声学と音韻論の違いを理解し、説明できる。 音声と音素の違いを説明できる。 異音、ミニマルペアといった用語を説明できる。 音の変化を理解し、身近に例を発見できるようになる。			10	【授業単元】 統語論①:統語論の基本 【授業形態】 講義 【到達目標】 統語論の基礎用語、語順の大切さなどを理解できる。		
3	【授業単元】 文字論 【授業形態】 講義 【到達目標】 日本で使われている文字のしくみや成り立ちを理解し、説明できる。			11	【授業単元】 統語論②:文の形成 【授業形態】 講義 【到達目標】 主題、題述、述語の項といった用語の意味を説明できる。 文や節の構造を理解し、例を分析できる。		
4	【授業単元】 形態論①:形態論の基本 【授業形態】 講義 【到達目標】 形態素、語幹、接辞といった基本的な用語を理解し、具体例をあげられる。			12	【授業単元】 統語論③:修飾 【授業形態】 講義 【到達目標】 連体修飾について理解し、用語の説明ができる。		
5	【授業単元】 形態論②:名詞の形成 【授業形態】 講義 【到達目標】 複合語の意味について簡単な分析ができる。 連濁についての説明ができる。 名詞の語形成に関して、具体例を自分で探せるようになる。			13	【授業単元】 意味論／語用論①:様々な用語 【授業形態】 講義 【到達目標】 プロトタイプ、上位語・下位語といった用語を説明できる。 直示表現、言語の変種について理解できる。		
6	【授業単元】 形態論③:動詞の形成 【授業形態】 講義 【到達目標】 母音語幹動詞と子音語幹動詞を見分けることができる。 語彙的複合動詞と文法的複合動詞の違いを理解できる。 動詞を形成する要素となるテンス(時制)、アスペクト(相)、モダリティ(法性)について理解できる。			14	【授業単元】 語用論②:敬語／後半のまとめ 【授業形態】 講義 【到達目標】 敬語の使い方を理解し、場面に応じた適切な敬語が使えるようになる。 後半をふりかえり、学んだことを過去問解答に活用できる。		
7	【授業単元】 前半のまとめ 【授業形態】 講義 【到達目標】 前半をふりかえり、学んだことを過去問解答に活用できる。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 試験／講義 【到達目標】 定期試験および解説		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 試験／講義 【到達目標】 中間試験および解説			【評価について】 中間試験(40点満点):第8回の授業時に1時間の試験を行う。持ち込み不可。 定期試験(60点満点):第15回の授業時に1時間の試験を行う。持ち込み不可。 成績評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】				なし			

科目名 (英)	音声学 (Phonetics)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 大学院で言語学・音声学の知識を学び、研究をしていた教員が、日本語の音を観察・分析する授業を行う。 他言語との比較などを通して、日本語の音声の特徴を客観的に観察できるようになってほしい。							
【到達目標】 IPA(国際音声記号)およびアクセントなどの超分節的要素についての基礎知識を身につける。 国家試験に出題されるようなレベルの問題を解けるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 『たのしい音声学』(くろしお出版)、プリント配布				【授業外における学習】 専門用語が多く出てくるので、毎回復習をして知識を定着させること。 日常生活の中でも日本語の発音を客観的に考える癖をつけること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 音声とは／調音器官 【授業形態】 講義 【到達目標】 音声学でいう音声とは何か説明できる。 自分の調音器官を確認し、部位と名称を把握する。			9	【授業単元】 様々な音声現象 【授業形態】 講義 【到達目標】 無声化、円唇化、鼻音化など、様々な音声現象を理解できる。		
2	【授業単元】 気流機構と発声／母音と子音の違い 【授業形態】 講義 【到達目標】 気流機構(発声のしくみ)の基本を理解し、用語の説明ができる。 母音と子音の違いおよび母音の構音に必要なものの説明ができる。			10	【授業単元】 音の単位とリズム 【授業形態】 講義 【到達目標】 2種類の音単位(音節とモーラ)の違いを説明できる。 与えられた単語を、音節とモーラで区切ることができる。 日本語のリズムのしくみを理解できる。		
3	【授業単元】 子音の分類基準 【授業形態】 講義 【到達目標】 子音の構音に必要なものの説明ができる。			11	【授業単元】 日本語のアクセント① 【授業形態】 講義 【到達目標】 高さアクセントと強勢アクセントの違いを説明できる。 アクセントとトーンの違いを説明できる。 共通語のアクセントルールを理解できる。		
4	【授業単元】 破裂音・摩擦音・破擦音 【授業形態】 講義 【到達目標】 破裂音・摩擦音・破擦音について理解ができる。			12	【授業単元】 日本語のアクセント② 【授業形態】 講義 【到達目標】 名詞アクセントのパターン(4つの型)の説明ができる。 複合語のアクセントの傾向を理解できる。 動詞・形容詞のアクセント規則を理解できる。		
5	【授業単元】 鼻音・流音・接近音 【授業形態】 講義 【到達目標】 鼻音・流音・接近音について理解ができる。 阻害音と共鳴音の違いを理解できる。			13	【授業単元】 イントネーション／音の間と強調 【授業形態】 講義 【到達目標】 イントネーションの機能を理解できる。 ポーズ、プロミネンスなどの用語を理解し、具体例をあげられる。		
6	【授業単元】 IPA表記の練習／特殊拍 【授業形態】 講義 【到達目標】 IPA表記を確認する。 日本語の子音に起こる現象(硬口蓋化など)の説明ができる。 「っ」や「ん」といった特殊拍およびその発音について理解し、簡単な説明ができる。			14	【授業単元】 後半のまとめ 【授業形態】 講義 【到達目標】 後半をふりかえり、学んだことを過去問解答に応用できる。		
7	【授業単元】 前半のまとめ 【授業形態】 講義 【到達目標】 前半をふりかえり、学んだことを過去問解答に応用できる。			15	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 試験／講義 【到達目標】 定期試験および解説		
8	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 試験／講義 【到達目標】 中間試験および解説			【評価について】 中間試験(40点満点):第8回の授業時に1時間の試験を行う。持ち込み不可。 定期試験(60点満点):第15回の授業時に1時間の試験を行う。持ち込み不可。 成績評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語発達学Ⅰ (Speech DevelopmentⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 2時限
【授業の学習内容と心構え】							
言語聴覚士の資格を有し、臨床経験のある教員が授業を行う。 言語は、単にコミュニケーションの手段で有るだけでなく言語を用いて思考し行動調整の機能を持つ。 どのように言語が獲得され、それには何が必要なのかを理解することは、臨床において言語聴覚障害児・者理解の基礎となる。							
【到達目標】							
子どもの前言語期から学童期の言語発達について学ぶ。子どもの前言語期から学童期の言語発達を理解し、正常発達を学ぶ。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第2版 (医学書院)				事前に教科書の該当するページを読んでおきましょう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 言語発達の基礎的問題の理解 【授業形態】 講 義 【到達目標】 ・オリエンテーション ・ことばの定義を説明できる			9	【授業単元】 1～2歳(単語獲得期)【1】 【授業形態】 講 義 【到達目標】 ・初語・始語・有意味語について説明できる ・語彙の発達について説明できる ・第一期言語獲得期について説明できる		
2	【授業単元】 言語発達の基礎的問題の理解 【授業形態】 講 義 【到達目標】 ・ことば・言語・コミュニケーションについて説明できる ・ことばの機能・要素について説明できる			10	【授業単元】 1～2歳(単語獲得期)【2】 【授業形態】 講 義 【到達目標】 ・構文の発達について説明できる ・語の意味理解の発達について説明できる ・ことばの発達を支えるものについて説明できる		
3	【授業単元】 言語獲得理論【1】 【授業形態】 講 義 【到達目標】 ・学習理論について説明できる ・生得理論について説明できる			11	【授業単元】 幼児期(構文獲得期)【1】 【授業形態】 講 義 【到達目標】 ・幼児期のことばの特徴について説明できる ・一応のことばの達成期について説明できる ・第二期言語獲得期について説明できる		
4	【授業単元】 言語獲得理論【2】 【授業形態】 講 義 【到達目標】 ・認知論について説明できる ・社会相互作用論について説明できる ・情報処理理論について説明できる			12	【授業単元】 幼児期(構文獲得期)【2】 【授業形態】 講 義 【到達目標】 ・語彙・構文の発達について説明できる ・談話の発達について説明できる ・文字関心期について説明できる		
5	【授業単元】 ことばの発達の道筋 【授業形態】 講 義 【到達目標】 ・ことばの発達の特徴について説明できる ・ことばの発達段階について説明できる			13	【授業単元】 児童期(学童期)【1】 【授業形態】 講 義 【到達目標】 ・話し言葉の発達について説明できる ・生活言語・学習言語について説明できる		
6	【授業単元】 前言語期【1】 【授業形態】 講 義 【到達目標】 ・新生児の能力について説明できる ・発信行動について説明できる			14	【授業単元】 児童期(学童期)【2】 【授業形態】 講 義 【到達目標】 ・書きことばの発達について説明できる ・コミュニケーションの発達について説明できる		
7	【授業単元】 前言語期【2】 【授業形態】 講 義 【到達目標】 ・象徴機能、三項関係について説明できる ・ことばの理解、表出過程について説明できる			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験			【評価について】 ・中間試験(40点満点) ・定期試験(60点満点) ・中間試験と定期試験の合計100点満点で、評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	社会保障制度・関連法規 (Social Security System, Related Laws and Regulations)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 5時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 大学や専門学校において、法学概論や憲法といった「基礎法学」や「法解釈学」の教育に携わり、「医事法」を研究する教員が、患者の生存権を尊重し、社会復帰やQOL向上を実現するための社会保障制度と、現実問題へ応用できる力を習得する授業を行う。 医療従事者として業務に就くために必要な内容となるので、患者の権利や利益はいかにして守られているかを考えながら受講することを望む。授業内で習得した知識をつかって現実問題を考える演習を行うため、積極的な意見表明を求める。							
【到達目標】 ・言語聴覚士として業務を行う際に必要とされる社会保障制度・関連法規の概要を説明できる。 ・患者のQOLを高め、社会生活を支援する仕組みについて説明できる。 ・関連する法令や制度を通じて、多職種の専門家や行政機関などと協同できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 教科書は指定しない。各回レジュメを配布する。				【授業外における学習】 社会保障制度は制度改正が頻繁にあるので、細かな内容よりも制度の概要を理解するように努める。また、授業で配布された資料は復習し、確実に理解しておく。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 社会福祉と地域福祉 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・社会福祉の概念について説明できる。 ・地域包括ケアシステムについて説明できる。 ・社会福祉の活動主体について説明できる。			9	【授業単元】 生活保障としての公的扶助② 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・「社会手当」によって生活が保障される仕組みを説明できる。 ・公的扶助では対応できないニーズを説明できる。		
2	【授業単元】 雇用と生活保障 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・労働基本権などの労働者の権利について説明できる。 ・労働基準法などの働き方についての法律を理解する。 ・労働法などの労働者を保護するための法律を理解する。			10	【授業単元】 児童福祉① 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・民法の親子関係に関する規定を説明できる。 ・児童福祉法の概要を説明できる。		
3	【授業単元】 教育と生活保障 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・教育機会の提供支援について説明することができる。 ・学校制度と学校保健管理について説明することができる。 ・チーム学校で対応する課題を説明することができる。			11	【授業単元】 児童福祉②／障害者福祉① 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・児童虐待防止法の概要を説明できる。 ・障害者基本法の概要を説明できる。 ・障害者総合支援法の概要を説明できる。		
4	【授業単元】 生活保障としての社会保険制度① 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・「保険」によってどのように生活が保障されるか説明できる。 ・医療サービスを保障する仕組みについて説明できる。 ・失業や労災のリスクを保障する仕組みについて説明できる。			12	【授業単元】 障害者福祉② 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・障害者虐待防止法について説明できる。 ・障害者差別解消法の概要を説明できる。		
5	【授業単元】 生活保障としての社会保険制度② 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・加齢にともなうリスクを保障する仕組みについて説明できる。 ・介護サービスを保障する仕組みについて説明できる。 ・どのような種類の年金があるか説明できる。			13	【授業単元】 高齢者福祉① 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・高齢者福祉の背景を説明できる。 ・成年後見制度の概要を説明できる。		
6	【授業単元】 生活保障としての公的扶助① 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・生活保護制度の理念について説明できる。 ・生活保護制度の原理と原則を説明できる。 ・生活保護制度の給付内容を説明できる。			14	【授業単元】 高齢者福祉② 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・老人福祉法に基づく福祉サービスの概要について理解する。 ・高齢者虐待防止法の概要を説明できる。		
7	【授業単元】 「社会保障制度・関係法規」前半の振り返り 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験に向けて、これまでの学習内容を振り返る。			15	【授業単元】 定期試験の実施と解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・これまで学習した内容を振り返り、想起することができる。		
8	【授業単元】 中間試験の実施と解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・これまで学習した内容を振り返り、想起することができる。			【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。授業で学習した専門用語、法制度の理解、定着度を確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。試験は「語群穴埋め」と「五肢択一」の形式である。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 国試受験までは時間があるので、この授業を国試対策というよりも、言語聴覚士として必要な社会保障制度の概要を知るものと位置づけてもらいたい。							

科目名 (英)	リハビリテーション概論 (an outline of rehabilitation)		必修 選択	必修	年次	1 年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 1時限
【授業の学習内容と心構え】 リハビリテーションを取り巻く、経済、社会構造、保障制度、概念や価値観の編成について学びます。 医療・福祉の情勢を捉え、医療職としての基礎知識、概念を身に着けます。								
【到達目標】 社会保険と社会福祉の違い、それぞれのカテゴリーに属する制度を明記できる。 人口動態や社会福祉、医療施策などから日本の医療福祉の潮流について理解ができる。 リハビリテーションに関わる職種の共通知識「ICF」の概念を知る。								
【使用教科書・教材・参考書】 テキストは準備します					【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要			
1・2	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	社会保険、医療保障とは 講義 社会保険の役割 社会保険の4つの柱			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3・4	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	給料明細を見てみよう 講義 社会保険の種類と概要			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5・6	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	STの給料はどのように決まる？ 講義 医事法と診療報酬			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7・8	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	セーフティネットの社会福祉 講義 総合支援法と生活保護			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
9・10	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	自分たちは何歳まで生きて、どのように死ぬ 講義 人口動態・人口静態の歴史			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
10・11	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	健康とはなにか？ 講義 WHO定義・ICF			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
12・13	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	多様性ある社会の実現 講義 ノーマライゼーションから合理的配慮 地域共生社会・地域包括ケアシステム			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
14・15	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	定期試験、解答解説 講義		【評価について】 毎回の小テスト40点分(合計を40点満点で換算する) 定期テスト(8回)60点分 国家試験方式5択を予定				
【特記事項】								

科目名 (英)	言語聴覚障害概論Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	Introduction to Speech and Hearing DisabilitiesⅠ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	前期
学科・コース	言語聴覚士科					曜日・時間	木曜日 3・4時限
【授業の学習内容と心構え】 医療機関で長年にわたり言語聴覚士として小児～成人の言語聴覚障害の臨床経験を積み、現在は児童発達支援センターの施設長として、医療・福祉・教育機関との連携や施設の運営管理にも携わっている教員が、言語聴覚士の仕事や必須知識と技術の基礎を習得する授業を行なう。医療・福祉・教育機関の言語聴覚療法の実場面の動画を豊富に活用して、言語聴覚療法のイメージをリアルに抱けるように教授し、各定義や専門用語を言語化して説明できるようになることを目標とする。自己の専門職への志望動機を高め、能動的に学習に取り組むように努めて受講してほしい。また、毎回実場面の動画を患者・ご家族に同意を得たうえで供覧するので、真摯な受講態度で講義に臨むこと。							
【到達目標】 言語聴覚士法に則って、臨床業務の内容を言語化して、説明できる。 言語聴覚士の対象とする全ての障害の種類と代表的症状について動画をみて説明できる。 各障害を理解するための解剖・生理学的な専門基礎知識を習得する。 医学・心理学的な知識に基づけられた必須基礎技術を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
言語聴覚士テキスト 第3版・配布資料				毎回、国家試験の過去問題を含めた練習問題を配布するため、復習すること。また、配布資料に理解すべきポイントを提示するため、復習すること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】言語聴覚士の定義・業務とリハビリテーション 【授業形態】講義 【到達目標】 法制度上の言語聴覚士の定義と業務を説明できる。			9	【授業単元】成人・小児の発声発語障害 音声障害 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 音声障害の定義と基本症状を説明できる。また、音声障害を生じる代表的な喉頭病変の内視鏡動画を供覧し、嚙声の聴覚心理学的評価法(GRBAS尺度)を演習し、習得する。		
2	【授業単元】言語聴覚士が行う診療補助行為とリハビリテーション 【授業形態】講義 【到達目標】 人工内耳の調整・摂食嚥下訓練その他の医療行為を列挙し、簡潔に説明できる。さらにリハビリテーション・チームの構成と各職種の役割を説明できる。			10	【授業単元】成人・小児の発声発語障害 気管切開術後の発声障害 【授業形態】講義 【到達目標】 呼吸器系の構造と機能の基礎知識を習得し、発声発語器官の構造名称を記述できる。また、気管切開術の実際と気管切開児の音声獲得過程を動画で供覧し、呼吸と発声の関連性を理解する。さらに基本的な気管 カニューレの構造名称を記述できる。		
3	【授業単元】ことばの鎖からみた言語聴覚障害の種類 【授業形態】講義 【到達目標】 ことばの鎖(Speech Chain)の図を説明し、言語学的過程と生理学的過程に分けて、障害の種類を列挙できる。			11	【授業単元】成人・小児の発声発語障害 運動障害性構音障害と摂食・嚥下障害 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害と摂食・嚥下障害の定義と基本症状を説明できる。また、成人・小児の運動障害性構音障害と摂食・嚥下障害のスクリーニングテストの技術を演習し、習得する。		
4	【授業単元】リハビリテーションの医学的根拠 【授業形態】講義 【到達目標】 「脳と心」を題材にリハビリテーションの医学的根拠を、脳損傷による言語障害からの回復について、神経系の解剖・生理学的用語から平易に説明できる。			12	【授業単元】成人・小児の発声発語障害 器質性構音障害 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 成人では口腔癌(舌癌術後)、小児では唇顎口蓋裂に起因する器質性構音障害の定義と基本症状を説明できる。また、成人・小児の器質性構音障害のスクリーニングテストの技術を演習し、習得する。		
5	【授業単元】成人の言語障害 失語症① 【授業形態】講義 【到達目標】 失語症を理解するための中枢神経系の構造(特に言語機能に関連する脳部位)をイラストや動画と対比して同定できる。			13	【授業単元】成人・小児の発声発語障害 吃音(流暢性障害) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 小児・成人の吃音(流暢性障害)の定義と基本症状を説明できる。また、吃音のスクリーニングテストの技術を演習し、習得する。		
6	【授業単元】成人の言語障害 失語症② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 失語症の定義と基本症状を説明できる。また、失語症のスクリーニングテストの技術を演習し、習得する。			14	【授業単元】成人・小児の聴覚障害 難聴 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 聴覚系の基本的構造・機能を理解し、難聴の分類を説明できる。また小児・成人の手話でコミュニケーションを図る聾者のドキュメンタリー動画を供覧し、聴覚障害児(者)のコミュニケーション手段を説明できる。		
7	【授業単元】小児の言語障害 言語発達障害① 【授業形態】講義 【到達目標】 乳幼児期の正常言語発達の過程を発達段階別に重要ポイント説明出来る。言語発達の阻害要因と言語発達障害の原因となる障害の種類を列挙できる。			15	【授業単元】定期試験・終了後の解答解説 【授業形態】 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをし、課題を抽出する。抽出された課題の何がわからなかったのかを特定する。		
8	【授業単元】小児の言語障害 言語発達障害②・中間試験・解答解説 【授業形態】講義・演習・試験 【到達目標】 言語発達障害の定義と基本症状を説明できる。また、言語発達障害のスクリーニングテストの技術を演習し、習得する。第1回～第8回の内容を筆記試験し、解答・解説し、不明・誤った問題を解けるように修正し、理解する。			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で、確認した知識・技術の理解・定着度を確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 毎授業において、指示した内容は必ずメモをとること。 健康・体調管理に留意して、可能な限り欠席しないこと。							

科目名 (英)	言語聴覚障害診断学Ⅰ (Diagnosis of Speech and hearing DisabilitiesⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語聴覚士として器質性・機能性構音障害および小児の臨床経験を持つ教員が、言語聴覚士を目指す学生に構音障害と小児の臨床についての基本的な知識を習得できるように指導する。 構音障害は口腔形態、口腔機能、発達、咀嚼・嚥下、聴覚、音響など多岐にわたる知識が必要となり、言語発達とともに小児の言語聴覚士が関わっていく主要な分野である。臨床に結びつく正確な知識を身に付けられるように講義を行っていく。							
【到達目標】 設定された検査を実施できるようになること。 また必要に応じて検査結果から解釈が出来るようになること。							
【使用教科書・教材・参考書】 各種マニュアル配布予定				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 評価の目的を理解する 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・言語聴覚士の業務の中における「評価」の目的、重要性を理解し、検査を学ぶにあたっての注意事項等を確認する。			9	【授業単元】 新版構音検査を実施できる。⑦ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 新版構音検査を擬似的に実施できる。		
2	【授業単元】 新版構音検査の目的 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・新版構音検査がどのような検査か説明できる。			10	【授業単元】 新版構音検査を実施できる。⑧ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 新版構音検査を擬似的に実施できる。 新版構音検査の結果から解釈を導くことができる。		
3	【授業単元】 新版構音検査の内容① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・発声発語の構造・機能を説明できる。			11	【授業単元】 S-S法 概要① 【授業形態】 講義 【到達目標】 S-S法の理論を理解する。		
4	【授業単元】 新版構音検査の内容② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・発声発語器官の構造・機能と構音の関連を説明できる。			12	【授業単元】 S-S法 概要② 【授業形態】 講義 【到達目標】 S-S法の理論を説明できる。		
5	【授業単元】 新版構音検査の内容③ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・日本語に使用しているIPAを読むことができる。			13	【授業単元】 絵画語い検査① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 絵画語い検査がどのような検査かわかる。		
6	【授業単元】 新版構音検査の内容④ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・日本語に使用しているIPAを書くことができる。			14	【授業単元】 絵画語い検査② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】		
7	【授業単元】 新版構音検査の内容⑤ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・日本語に使用しているIPAの読み書きをスムーズにできる。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験、質疑応答			【評価方法について】 中間試験・定期試験いずれも実技試験及び課題を実施。 中間試験40点満点、定期試験60点満点とする。			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚障害診断学Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	[Diagnosis of Speech and hearing DisabilitiesⅠ]	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 5時限
学科・専攻	言語聴覚士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 小児の言語聴覚療法を現場で行なっている言語聴覚士による講義及び演習授業。 言語聴覚士に必要な主に領域における検査を行う。 演習が含まれるため、休まないこと。また授業1回1回に積極的に参加し、実技を磨いていくこと。							
【到達目標】 設定された検査を実施できるようになること。 検査結果から解釈が出来るようになること。							
【使用教科書・教材・参考書】 各種検査マニュアル(プリントして配布予定)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 小児領域の検査 概論 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児領域における検査の特徴(発達検査、知能検査、言語発達検査)を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 小児領域の知能検査を実施する① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 小児領域の知能検査(WISC-V)を実施し、その手順を学ぶ。その結果から解釈を導ける。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 小児領域の知能検査を実施する② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 小児領域の知能検査(WISC-V)を実施し、その手順を学ぶ。その結果から解釈を導ける。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 中間試験と解説				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 小児領域の知能検査を実施する③ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 小児領域の知能検査(WISC-V)を実施し、その手順を学ぶ。その結果から解釈を導ける。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 検査結果の解釈、分析を行う① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 臨床症状と検査結果を基に具体的な指導や支援の方向性を導くことができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 検査結果の解釈、分析を行う② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 臨床症状と検査結果を基に具体的な指導や支援の方向性を導くことができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 定期試験と解説				【評価方法について】 評価は筆記試験で行い、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で採点・評価する。		
【特記事項】							

科目名 (英)	失語症Ⅰ (AphasiaⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 2時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として高次脳機能障害や失語症の臨床経験を持つ教員が、言語聴覚士を目指す学生に失語症についての基本的な知識と考え方を習得できるように指導する。失語症は言語聴覚士が主要分野として関わっていく分野である。臨床に結び付く正確な知識を身に付けられるように講義を行っていく。							
【到達目標】 失語症の基礎的な症状、各タイプについて説明できるようになる。失語症検査の代表的なものについて、その種類と適用を理解して選択できるようになる。訓練については概要を理解し説明できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版 ・病気が見える 第2版				【授業外における学習】 事前に教科書の該当するページを読んでおきましょう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 失語症の定義 『聴く』『話す』の言語症状 【授業形態】 講義 【到達目標】 失語症の定義を理解し説明できる。失語症の『聴く』『話す』モダリティの言語症状を説明できる。			9	【授業単元】 皮質下性失語 【授業形態】 講義 【到達目標】 皮質下性失語について理解して説明できる。患者像をイメージできる。		
2	【授業単元】 『読む』『書く』の言語症状 【授業形態】 講義 【到達目標】 失語症の『読む』『書く』モダリティの言語症状を説明できる。			10	【授業単元】 原発性進行性失語 【授業形態】 講義 【到達目標】 原発性進行性失語について理解して説明できる。患者像をイメージできる。		
3	【授業単元】 古典分類 プローカ失語 【授業形態】 講義 【到達目標】 プローカ失語について理解して説明できる。患者像をイメージできる。			11	【授業単元】 純粋型 【授業形態】 講義 【到達目標】 純粋型について理解して説明できる。患者像をイメージできる。		
4	【授業単元】 古典分類 ウェルニッケ失語 【授業形態】 講義 【到達目標】 ウェルニッケ失語について理解して説明できる。患者像をイメージできる。			12	【授業単元】 失語症の検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 検査の種類と適用を理解して説明できる。主要な言語検査の概要を理解して説明できる。		
5	【授業単元】 古典分類 伝導失語 【授業形態】 講義 【到達目標】 伝導失語について理解して説明できる。患者像をイメージできる。			13	【授業単元】 失語症の訓練 【授業形態】 講義 【到達目標】 基本的な失語症の訓練について理解して説明できる。各方法の違いを説明できる。		
6	【授業単元】 古典分類 健忘失語・全失語 【授業形態】 講義 【到達目標】 健忘失語と全失語について理解して説明できる。患者像をイメージできる。			14	【授業単元】 失語症の訓練 【授業形態】 講義 【到達目標】 基本的な失語症の訓練について理解して説明できる。各方法の違いを説明できる。		
7	【授業単元】 古典分類 超皮質性失語 【授業形態】 講義 【到達目標】 超皮質性失語について理解して説明できる。患者像をイメージできる。			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 評価は筆記試験にて行う。中間試験40点、定期試験60点の計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	高次脳機能障害学Ⅰ (Higher Brain DysfunctionⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 3時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として高次脳機能障害や失語症の臨床経験を持つ教員が、言語聴覚士を目指す学生に高次脳機能障害についての基本的な知識と考え方を習得できるように指導する。高次脳機能障害は失認、失行、記憶障害など多岐に渡り、言語聴覚士が関わっていく主要な分野である。臨床に結びつく正確な知識を身に付けられるように講義を行っていく。							
【到達目標】 各障害について症状を理解し説明できる。主要な検査について概要を理解して正確に選択することができる。訓練の概要を説明することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版 ・病気が見える 第2版				【授業外における学習】 事前に教科書の該当するページを読んでおきましょう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 高次脳機能障害の定義と種類 【授業形態】 講義 【到達目標】 高次脳機能障害とは何か、どのような障害があるのかを理解して説明できる。			9	【授業単元】 記憶障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 記憶障害の症状を理解して説明できる。主な検査と訓練を理解して説明できる。		
2	【授業単元】 失行 【授業形態】 講義 【到達目標】 失行の症状を理解して説明できる。主な検査と訓練を理解して説明できる。			10	【授業単元】 記憶障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 記憶障害の症状を理解して説明できる。主な検査と訓練を理解して説明できる。		
3	【授業単元】 視覚認知の障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 視覚認知の障害の症状を理解して説明できる。主な検査と訓練を理解して説明できる。			11	【授業単元】 前頭葉機能障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 前頭葉機能障害の症状を理解して説明できる。主な検査と訓練を理解して説明できる。		
4	【授業単元】 視覚認知の障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 視覚認知の障害の症状を理解して説明できる。主な検査と訓練を理解して説明できる。			12	【授業単元】 前頭葉機能障害・脳外傷 【授業形態】 講義 【到達目標】 前頭葉機能障害と脳外傷の症状を理解して説明できる。主な検査と訓練を理解して説明できる。		
5	【授業単元】 聴覚認知の障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 聴覚認知障害の症状を理解して説明できる。主な検査と訓練を理解して説明できる。			13	【授業単元】 認知症 【授業形態】 講義 【到達目標】 認知症の症状を理解して説明できる。主な検査と訓練を理解して説明できる。		
6	【授業単元】 視空間認知障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 視空間認知障害の症状を理解して説明できる。主な検査と訓練を理解して説明できる。			14	【授業単元】 脳梁離断症状 【授業形態】 講義 【到達目標】 脳梁離断症状を理解して説明できる。		
7	【授業単元】 身体や病態についての認知の障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 身体や病態についての認知障害の症状を理解して説明できる。主な検査と訓練を理解して説明できる。			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 評価は筆記試験にて行う。中間試験40点、定期試験60点の計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語発達障害学Ⅰ (Language developmental disordersⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 3.4時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として医療・福祉機関で長年にわたり小児の言語発達障害児の臨床経験を積み、特に言語発達遅滞、自閉症スペクトラムや学習障害の臨床研究論文や書籍を執筆してきた教員が、必須知識と技術の基礎を習得する授業を行なう。具体的には、基礎知識や評価・指導法を臨床経験を踏まえて実例を挙げ、言語聴覚療法の実場面の動画を豊富に活用して、言語発達障害児の代表的な評価・指導法を説明でき、基本的な検査や指導法を実施できるようになることを目標とする。小児の言語発達臨床の重要性への理解を深め、能動的に学習に取り組むように努めて受講してほしい。また、毎回実場面の動画を患者・ご家族に同意を得たうえで供覧するので、真摯な受講態度で講義に臨むこと。							
【到達目標】 乳幼児期～学童期の定型(正常)言語発達の過程を言語化して、説明できる。 言語発達を阻害する発達障害の種類と代表的症状について動画をみて説明できる。 各障害を理解するための代表的な検査の実施と解釈を含めた評価方法を習得する。 評価結果を指導法に結びつける臨床的な思考技術と基本的な指導方法を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語発達障害学 第2版(医学書院)・配布資料				【授業外における学習】 毎回、練習問題を配布するため、復習すること。また、配布資料に理解すべきポイントを提示するため、ノートにまとめること。検査法については、代表的な検査の実施方法を練習すること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】乳幼児期の定型(正常)言語発達と1歳6ヶ月児・3歳児健診 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 乳幼児期の言語発達過程を説明できる。1歳6ヶ月児・3歳児健診のスクリーニング検査を実施できる。			9	【授業単元】知的能力の評価①:田中ビネー式知能検査Ⅴその1 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 主に乳幼児期の知的能力を精密に評価できる田中ビネー式知能検査Ⅴの構成・実施方法を説明できる。言語聴覚士が実施することの多い、2歳～7歳級の検査場面を動画で見て実施方法を理解する。		
2	【授業単元】乳児期の音声言語・認知・感覚運動発達 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 乳児期の音声言語・認知・運動発達過程を説明できる。乳児期の原始反射検査を実施できる。			10	【授業単元】知的能力の評価①:田中ビネー式知能検査Ⅴその2 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 言語聴覚士が実施することの多い、2歳～7歳級の検査場面を動画で見て、結果の処理と知能指数を算出できる。		
3	【授業単元】幼児期の音声言語・認知・感覚運動発達 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 幼児期の音声言語・認知・運動発達過程を説明できる。幼児期の感覚運動発達の検査法(随意運動発達検査)を実施できる。			11	【授業単元】知的能力の評価②:WISC－Ⅳ知能検査その1 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 主に就学前～学童期の知的能力を精密に評価できるWISC－Ⅳ知能検査の構成・実施方法を説明できる。言語聴覚士が実施している検査場面を動画で見て実施方法を理解する。		
4	【授業単元】就学前期～学童期の音声言語・認知・感覚運動発達 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 就学前期～学童期の音声言語・認知・運動発達過程を説明できる。微細神経徴候を含めて、就学前期の軽微な発達の問題を捉える5歳児健診の構造的診察法を実施できる。			12	【授業単元】知的能力の評価②:WISC－Ⅳ知能検査その2 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 言語理解指標・知覚推理指標・ワーキングメモリー指標・処理速度指標の基本下位検査を実施できる。		
5	【授業単元】言語発達の阻害要因①:発達障害・知的障害・脳性麻痺 【授業形態】講義 【到達目標】 DSM-5とICD-10に基づく言語発達の阻害要因となる発達障害・知的障害・脳性麻痺の定義と主症状を診断基準に基づいて言語化して説明できる。			13	【授業単元】知的能力の評価②:WISC－Ⅳ知能検査その3 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 言語理解指標・知覚推理指標・ワーキングメモリー指標・処理速度指標の補助下位検査を実施できる。		
6	【授業単元】言語発達の阻害要因②:小児の音韻発達と構音障害 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 言語発達に影響する構音障害の主症状について音韻発達段階を考慮して言語化して説明できる。主に鼻咽腔閉鎖不全に関連する異常構音と他の異常構音の種類を症例の動画と音声サンプルを聴いて、聴覚判定できる。			14	【授業単元】知的能力の評価②:WISC－Ⅳ知能検査その4 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 WISC－Ⅳ結果解釈手続きに則って、結果を処理し、各種合成得点やディスクレパンシー分析、SとWの判定などができる。		
7	【授業単元】言語発達の阻害要因③:小児の摂食嚥下障害 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 言語発達に影響する摂食嚥下障害の主症状について、発達段階を考慮して言語化して説明できる。症例の動画をみて、摂食嚥下機能の発達段階を判定できる。			15	【授業単元】中間試験・終了後の解答解説 【授業形態】 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをし、課題を抽出する。抽出された課題の何がわからなかったのかを特定する。		
8	【授業単元】全般的発達の評価①:新版K式発達検査2001 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 主に乳幼児期の姿勢運動領域・認知適応領域・言語社会領域を精密に評価できる新版K式発達検査の目的・適用年齢・構成・実施方法を説明できる。言語聴覚士が実施することの多い、1歳～5歳レベル(第3葉～第5葉)の検査場面を動画で見て、発達指数を算出できる。			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で、確認した知識・技術の理解・定着度を確認する。筆記試験は、定期試験は60点で評価する。 最終的に中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 毎授業において、指示した内容は必ずメモをとること。 健康・体調管理に留意して、可能な限り欠席しないこと。							

科目名 (英)	言語発達障害学Ⅰ (Language developmental disordersⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 3・4時限
【授業の学習内容と心構え】							
言語聴覚士として医療・福祉機関で長年にわたり小児の言語発達障害児の臨床経験を積み、特に言語発達遅滞、自閉症スペクトラムや学習障害の臨床研究論文や書籍を執筆してきた教員が、必須知識と技術の基礎を習得する授業を行なう。具体的には、基礎知識や評価・指導法を臨床経験を踏まえて実例を挙げ、言語聴覚療法の実場面の動画を豊富に活用して、言語発達障害児の代表的な評価・指導法を説明でき、基本的な検査や指導法を実施できるようになることを目標とする。小児の言語発達臨床の重要性への理解を深め、能動的に学習に取り組むように努めて受講してほしい。また、毎回実場面の動画を患者・ご家族に同意を得たうえで供覧するので、真摯な受講態度で講義に臨むこと。							
【到達目標】							
乳幼児期～学童期の定型(正常)言語発達の過程を言語化して、説明できる。 言語発達を阻害する発達障害の種類と代表的症状について動画をみて説明できる。 各障害を理解するための代表的な検査の実施と解釈を含めた評価方法を習得する。 評価結果を指導法に結びつける臨床的な思考技術と基本的な指導方法を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
言語発達障害学 第2版(医学書院)・配布資料				配布資料に理解すべきポイントを提示するため、ノートにまとめること。検査法については、代表的な検査の実施方法を練習すること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
16	【授業単元】言語発達の評価：国リハ式言語発達遅滞検査法(S-S法) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 乳幼児期の言語発達段階を国リハ式言語発達遅滞検査法(S-S)法の実施方法を説明できる。特に記号形式一指示内容関係の発達段階の判定ができる。			24	【授業単元】自閉症スペクトラム(ASD)の言語コミュニケーション指導③ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自閉症スペクトラムの言語コミュニケーション指導への応用行動分析(ABA)の考え方を説明できる。さらに受容性コミュニケーションと表現コミュニケーションのプログラムと訓練課題を立案できる。T		
17	【授業単元】言語発達の評価：国リハ式言語発達遅滞検査法(S-S法) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 国リハ式言語発達遅滞検査法(S-S)法の実施方法を動画で見て、実際の症例の言語発達段階の判定解釈及び症状分類ができる。			25	【授業単元】知的障害の言語コミュニケーション評価と指導 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 主にダウン症児の言語コミュニケーション評価と指導の流れを説明できる。また、ダウン症児の言語コミュニケーションプログラムの実際を動画をみて、その目的を説明できる。		
18	【授業単元】言語発達の指導：S-S法に基づく包括的訓練プログラム① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 国リハ式言語発達遅滞検査法結果から受信と発信およびコミュニケーション行動の訓練プログラムを立案できる。具体的訓練課題の考案方法を理解できる。			26	【授業単元】学習障害の言語コミュニケーション評価と指導① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 主に発達性読み書き障害の主症状を説明できる。さらに特異的発達障害の診断・治療ガイドラインの音読検査と標準読み書きスクリーニング検査(STRAW-R)を実施できる。		
19	【授業単元】言語発達の指導：S-S法に基づく包括的訓練プログラム② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 具体的訓練課題の考案方法を理解し、教材を作成できる。			27	【授業単元】学習障害の言語コミュニケーション評価と指導② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 特異的発達障害の診断・治療ガイドラインの音読検査と標準読み書きスクリーニング検査(STRAW-R)の結果を解釈し、デコーディング能力の指導と書字指導・読解指導の課題を立案・設定できる。		
20	【授業単元】自閉症スペクトラム(ASD)の診断と評価 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 DSM-5に基づく言語発達の代表的な阻害要因となる自閉症スペクトラムの定義と主症状を診断基準に基づいて言語化して説明できる。さらに、言語・コミュニケーション障害の特徴を説明できる。			28	【授業単元】注意欠如・多動性障害の言語コミュニケーションの特徴と支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 注意欠如・多動性障害の主症状と言語コミュニケーション障害の特徴を説明できる。さらに薬物療法やソーシャルスキルトレーニング(SST)について説明できる。		
21	【授業単元】自閉症スペクトラム(ASD)の言語コミュニケーション評価 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自閉症スペクトラムの言語・コミュニケーション評価として、心の理論評価(一次・二次誤信念課題とストレンジ・ストーリー)および比喩・皮肉文テストを実施し、結果を解釈できる。			29	【授業単元】脳性麻痺・重複障害 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 脳性麻痺の定義と主症状説明し、タイプ分類ができる。また、脳性麻痺を中心とした重症心身障害児のコミュニケーション支援と摂食嚥下機能の指導方法を説明できる。		
22	【授業単元】自閉症スペクトラム(ASD)の言語コミュニケーション指導① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自閉症スペクトラムの言語コミュニケーション指導として、語用論的アプローチの考え方を説明できる。さらに相互交渉型アプローチ・伝達場面設定型指導・会話分析・社会語用論的グループ指導を説明し、模擬実演できる。			30	【授業単元】試験・終了後の解答解説 【授業形態】 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをし、課題を抽出する。抽出された課題の何がわからなかったのかを特定する。		
23	【授業単元】自閉症スペクトラム(ASD)の言語コミュニケーション指導② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自閉症スペクトラムの言語コミュニケーション指導へのTEACHプログラムの応用方法を説明できる。特に物理的構造化・視覚スケジュール・ワークシステム・視覚的構造化の方法を説明し、プログラムを立案できる。			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で、確認した知識・技術の理解・定着度を確認する。筆記試験は、定期試験は60点で評価する。 最終的に中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							
毎授業において、指示した内容は必ずメモをとること。 健康・体調管理に留意して、可能な限り欠席しないこと。							

科目名 (英)	解剖学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	Anatomy	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 3時限
学科・専攻	言語聴覚士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 病院、医療センターにおいて臨床兼エア技師、細胞検査士、国際細胞検査士として臨床（病理検査、細胞診）業務に携わり、また臨床検査技師学校および看護学校での教育経験を有する教員が本講義を担当します。言語聴覚士として必要な人体の構造と機能について十分な知識が身につくように、わかりやすく講義していきます。							
【到達目標】 言語聴覚障害に関わる疾患や障害を理解するのに必要な人体の解剖学の知識について学びます。							
【使用教科書・教材・参考書】 人体の構造と機能（医歯薬出版）				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 運動器系1 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動器系の構造と機能について理解する。 骨			9	【授業単元】 腎泌尿器系1 【授業形態】 講義 【到達目標】 腎臓の構造と尿の生成について理解する。		
2	【授業単元】 運動器系2 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動器系の構造と機能について理解する。 骨			10	【授業単元】 腎泌尿器系2 【授業形態】 講義 【到達目標】 腎臓の構造と尿の生成について理解する。		
3	【授業単元】 運動器系3 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動器系の構造と機能について理解する。 骨			11	【授業単元】 神経系1 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経系の構造と機能について理解する。		
4	【授業単元】 運動器系4 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動器系の構造と機能について理解する。 筋肉			12	【授業単元】 神経系2 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経系の構造と機能について理解する。		
5	【授業単元】 運動器系5 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動器系の構造と機能について理解する。 筋肉			13	【授業単元】 神経系3 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経系の構造と機能について理解する。		
6	【授業単元】 運動器系6 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動器系の構造と機能について理解する。 筋肉			14	神経系4 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経系の構造と機能について理解する。		
7	【授業単元】 運動器系7 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動器系の構造と機能について理解する。 筋肉			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験40点、定期試験60点により評価する。			
【特記事項】 中間試験、定期試験実施後はまとめ等の講義を行います。							

科目名 (英)	言語聴覚総合講座Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	(Preparation for the National ExaminationⅠ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 5時限
学科・専攻	言語聴覚士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語聴覚療法を長く行ってきた言語聴覚士による講義及び演習授業。 主に小児領域における評価と訓練立案を行う。 演習が含まれるため、休まないこと。また授業1回1回に積極的に参加し、実技を磨いていくこと。							
【到達目標】 臨床場面の反応や検査結果から解釈ができるようになること。 小児の評価と訓練立案ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 各種マニュアル(プリントして配布予定)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 小児領域の評価概要 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児領域における評価・検査の特徴を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 小児領域の評価概要 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 小児領域の症例を通し、言語発達面を評価する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 小児領域の評価概要 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 小児領域の症例を通し、構音面を評価する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 中間試験の実施と解説を行う。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 小児領域の訓練・支援概要 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 小児領域における訓練・支援の特徴を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 小児領域の訓練・支援 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 言語発達遅滞の症例を通し、訓練立案を行う。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 小児領域の訓練 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 構音障害の症例を通し、訓練立案を行う。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 定期試験の実施と解説を行う。			【評価方法について】 ・学則に準じて評価を行う。			
【特記事項】 試験に加え、レポート作成や発表などを行う。							